

自己評価書

四日市市立 中部中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	主体的に学ぶ生徒	3
主な方策 成果と課題	<p><主な方策>対話的な学びの確立と言語活動の充実、共に学ぶ集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員公開授業（問題解決能力の育成、中部中学校区学びのルールを盛り込む） ・テーマスピーチの発表（根拠をもって意見を述べる 言語能力） ・読書活動の充実（読解力） ・タブレット端末の効果的な活用（情報活用能力） <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え、それをタブレット等で交流する活動を繰り返すことで、相手にとってどのようなアプローチが理解しやすいかなどを考えて発表することができるようになった。 ・生徒が興味を持つ導入や展開になるように工夫したり、教科の特性を生かし表現活動を充実させる手立てを行ったりした。 ・授業も補充学習、家庭学習においてタブレット端末を要所で活用し、学力の定着に向けて取り組むことができた。 ・委員会活動を通して、おすすめ本の紹介をしたり、図書館司書との連携をするなど、読書活動の充実を図った。コロナ禍で減少していた貸し出し冊数が再度、持ち直しつつある。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小中における「中部中学校区学びのルール」の共通理解をより進める。 ・日常の家庭学習等、自ら継続した学び、より一層の基礎学力の定着。 ・タブレットを使用するタイミングや「手段」として活用の再考。 ・生徒の意見をつなげ、考えを深め、議論を発展させていく場面設定と、そのための研修機会のさらなる確保。 	
重点目標2	個性が輝く生徒	3
主な方策 成果と課題	<p><主な方策>価値観や文化の多様性を認め合う態度の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語習得に取り組む生徒や特別支援学級の生徒への個別支援と進路保障 ・認め合い、高めあう人権教育・道徳教育・国際理解教育の実践 ・キャリア教育（職業体験、キャリア講演会、パネルディスカッション等） <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校へのサポート、外国人生徒への支援等、毎週各種委員会で情報共有した。また定期的に指導員も参加できる体制を整え、より個別の支援につながるようにした。 ・考え議論する道徳に向け、学年で指導検討をしながら進めることができた。また、日々の教育活動の中の、道徳教育の意義を確認することができた。 ・昨年までの土台の上に、今後の中部中学校の人権教育計画を再考することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートから、道徳・人権学習の内容が生徒から家庭で話題にされることが少なく、保護者に伝わっていないことが分った。生徒を通じて学んだことが発信され、共に考えていけるように考えていきたい。 ・学校生活を通して、特別支援学級やワールド教室で学習する生徒とのより一層の仲間づくりを今後も進めていく。 	
重点目標3	生徒と向き合う教職員	3
主な方策 成果と課題	<p><主な方策>家庭訪問、教育相談、個人ノート、対話を中心に据えた生徒理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談的要素の自主学習ノートの要素を加えたDaily studyの定着 ・教職員全員（教員、事務職員、用務員等）の協働 ・質の高い教育提供に向けた総勤務時間の縮減 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会、特別支援委員会等の各種委員会を通じて、生徒の情報を迅速に共有し、各学年が互いに協力しながら生徒支援と指導にあたることができた。 ・教員をはじめ、適応指導員、SC、SSWが生徒の様子等をいち早く話題にし、職員全体で支援・指導を進めることができています。 ・担任や担当が抱え込まず、家庭訪問や教育相談など複数体制であたるができる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、関係機関と連携し、個別の課題に対し、生徒理解と支援を進めていく。 ・勤務時間の縮減に向け、職場全体で協議し、精選しながら進めていく。 	

重点目標 4	チーム CHUBU	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><主な方策> 運営協議会、PTA、地域人材が教育に参画できる取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会とのパネルディスカッション ・地域の方によるスペシャリスト授業、地域を拠点にした職場体験学習 ・中学生の地域行事への参加（防災訓練、講習会、四日市祭り後の清掃など） <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも、運営協議会の方が積極的に生徒と関わってくださったり、授業や行事に参観していただいた。（パネルディスカッション、体育祭、文化祭、公開授業等） ・1、2年生が地域スペシャリスト授業を実施でき、自分たちの住んでいる地域にどんな伝統技能・文化があるかを改めて知るよい機会になった。 ・保護者の声を運営協議会委員の方から届けていただくことがあった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も職場体験学習を実施できなかった。実施時期のコロナの感染状況等により、なかなか難しかった。 ・今後、より多くの地域協力者が参画できるよう、内容を充実させていく。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の実践により明らかになった課題を、解決していくため具体的に進めていく。 ・本校の教育ビジョンの実現、さらに主体的対話的な深い学び、誰一人取り残さない教育の実現に向け、教職員全員が研修を積みながら進めていく。 ・本校の持ち味である「ワールド教室」や外国籍の生徒が活躍する場の設定と、進路支援のさらなる充実（文化祭発表、総合学習、学校へ行こう等）。適応指導員との連携。 ・教育活動の見直しと整理（スクラップ&ビルド・働き方改革） ・社会情勢と学校の現状に合わせた校則の見直しと教職員の意識改革 ・PCのフォルダの整理。 ・コミュニティスクールの機能をさらに高め、地域の豊富な人材の積極的な教育活動への参画を進める。 ・教員、PTA役員、運営協議会委員に過度の負担がかからないような運営の仕方。 ・子どもの育ちにかかわる喜びを感じられる学校、地域にしていく。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 橋北中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな資質・能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>①問題解決能力の向上をめざした主体的・対話的で深い学びによる授業づくり ②学びの個別最適化と協働的な学習 ③全ての教科による言語能力・情報活用能力の育成 ④ICTの効果的な活用方法の研究</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・全教員がICTの効果的活用を目指した実践を校内で公開するなど、すべての教科においてICTを活用した授業研究を行った。その結果、生徒のICTスキルやクラウドの活用の向上に繋がり、また主体的に学びに活用する場面が増えた。・「ドリルパーク」や「こにゅどうくん学びの部屋」を使いながら習熟度に合わせた課題の提供や指導を行うことができた。・GoogleClassroomやJamboardなどを用いた授業を行ったことで、今まで発言力が弱い生徒も、自身の意見を書き込み、学級やグループ共有する対話的な学習を行うことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・言語能力、情報活用能力とは、どんな力なのかを考え、資質・能力の獲得を意識した授業を組み立てる必要がある。・問題解決能力の向上を目指して、すべての教科において単元を通した課題や貫く問いを明確にした単元デザインを意識した授業づくりを進める必要がある。・今後は、各教科の見方・考え方を働かせることを目指したICTの意図した活用の研究を進めていく。そのために授業観のアップデートが必要である。	
重点目標2	キャリア教育の推進	4
主な方策 成果と課題	<p>①社会的・職業的自立に必要な4つの力の獲得の支援 ②健康な体づくりの促進 ③非認知能力や自己肯定感を育む教育活動の工夫 ④特別支援教育の充実 ⑤持続可能な社会の実現をめざした教育の促進</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・4つの力を意識した毎日の活動や学校行事の振り返りを日常的に行ったことで、生徒に自律・協働・創生する場面が見られ、生徒会を中心とした生徒の自主的な活動が促進された。・個を大切にされた教育活動が実施され、きめ細かな支援の様子が保護者にも伝わり評価も得られた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・本年度からスコラ手帳を活用した自律を促す指導を取り入れたが、まだまだ定着していない生徒もいるため、改善していく必要がある。・小規模である本校にとって大切な指標である自己肯定感が育っていないため、今後も自律を意識した取り組みを行う必要がある。	

重点目標3	地域とともにある学校づくりの推進	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>①小規模校の強みを生かした教育活動の取り組みと地域への発信 ②コミュニティスクールを活用した諸活動の推進 ③『学びの一体化』の取り組みの促進 ④地域と連携した防災教育の取り組み ⑤働きやすい職場環境づくり</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にもSmall school , Big chance!が定着しており、小規模校の強みを生かした教育活動を保護者も実感している。 ・ほぼ毎日のHP更新、学期に1回以上の学校公開を行うことができた。その結果、様々な取り組みのねらいや効果を外部にアピールすることができた。 ・四日市版コミュニティスクール3年目となり中学校で開催した地域消防団と連携した防災教室を実施するとともに、小学校の防災学習に中学生がボランティアスタッフとして参加でき、地域ぐるみでの防災意識を高めることができた。また、コミュニティスクール、PTAなどが連携し、グラウンドの除草活動を行うことができ、快適な環境で体育祭を実施することができた。 <p>【課題】</p> <p>学校・家庭・地域がチーム感をもって子育てに取り組む気運の向上と、地域にとって橋北中学校の生徒が必要とされるような意識の向上と人材育成に努めたい。</p>	

2 改善方針

○コミュニティスクール委員からも今年度の本校の取り組みについては評価をいただいているので、次年度も学校教育ビジョンの重点目標を柱に、地域・学校・保護者が1つのチームとして課題や成果を共有しながら、協働体制の構築を図る。

○各教科における見方・考え方を働かせるために意図したICT活用の実践の推進を図り、確かな資質・能力（特に思考力、判断力、表現力等）の育成を目指す。また、上記の意図したICT活用がはかれるよう、教師の授業力向上を推進し、さらには個別最適な学びと協働的な学びの実現に繋げていく。

○本校キャリア教育の柱である4つの力（つながる力・みつめる力・うごく、いかす力・めざす力）の向上のため、3学年で取り組んでいるキャリア学習の取り組みを系統化し、3年間を通じた取り組みになるよう発展させる。

○地域の良さを子どもたちに伝え、地域で学び、地域を愛し、やがてその子どもたちが大人になって地域に戻ってくる、といった好循環を形成できるよう、コミュニティスクールや学びの一体化を中心とした取り組みのさらなる推進をしていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 港中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	知恵を育む（知）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>1 基礎的・基本的な知識・技能の定着 2 思考力・判断力・表現力の育成 3 特別支援教育の推進</p> <p>【成果】</p> <p>○タブレット端末を用いて生徒が深く学ぶことができるような授業ができた。 ○港タイムを有効につかい、基礎学力の育成に努めることができた。 ○評価方法を研究し、知識・技能の定着、思考・判断・表現力の育成を進めることができた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">●学習能力の底上げが必要である。●3観点を意識した評価方法をさらに研究していく必要がある。●通常学級における特別支援教育をより充実させる必要がある。	
重点目標2	心を豊かにする（徳）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>1 認め合い高め合う仲間づくり 2 健全な心の育成 3 読書活動の推進</p> <p>【成果】</p> <p>○体育祭の縦割りの群では、生徒に主体的に行動する能力を育てることができた。 ○仲間づくりに関して全学年が道徳や日々の教育活動の中で工夫して取り組めた。 ○教育相談を重ねることで生徒の感じていることを引き出すことができた。 ○朝の読書活動やブックトークを通して、読書と親しむ習慣がついている。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">●様々な不安を抱えている生徒がおり、仲間づくりをさらに進めていく必要がある。●生徒の自尊感情を高め、より多くのリーダーを育てていく必要がある。●生徒の抱える多様な問題に対応していく教師力の向上に努める必要がある。	
重点目標3	健やかな体をつくる（体）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>1 体験活動等を生かした安全教育の充実 2 健康管理を心がける生活習慣 3 健康でたくましく生きるための体力の向上</p> <p>【成果】</p> <p>○感染症対策も全職員で効果的に行うことができ、感染者数も少なく推移している。 ○地域と連携した防災学習を行うことができた。 ○食育や体づくり教室など、ゲストティーチャーの活用を行うことができた。 ○避難訓練での安全指導において、防災の意識を高めることができた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">●マスクに関して着用する時と外すときのメリハリのある指導が必要である。●生活習慣が乱れている生徒への効果的な支援について考えていく必要がある。●体力の向上に関して、部活動への参加意欲を高めていく必要がある。	

重点目標 4	キャリア教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>1 基礎的・汎用的能力を構成する4つ能力の育成(つながる・みつめる・うごくいかす・めざす)</p> <p>2 将来の夢や目標と学業を結びつける教育活動の工夫</p> <p>【成果】</p> <p>○様々な講演会や職場体験を通して、生徒は自分の将来を考えることができた。</p> <p>○すべての教育活動にキャリア教育を意識した活動が定着している。</p> <p>○4つの能力を育成する視点を持ち、教育活動を計画することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>●コロナによって削減された活動をどう再開していくか考えていく必要がある。</p> <p>●キャリア教育に関して港中独自の取り組みといえるもの考えていく必要がある。</p> <p>●将来の夢や目標と学業を結びつけるより多様な学習方法を考えていく必要がある。</p>	

重点目標 5	“学び舎”の礎	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>1 学校組織の活性化 2 自己研さんの推進(教えのプロとしての自覚)</p> <p>3 学びの一体化の推進 4 保護者・地域との協働</p> <p>【成果】</p> <p>○職員室において、学年を越えた職員同士が学びあう雰囲気や環境ができた。</p> <p>○小学校との情報共有や連携により共通の目線で取り組み、生徒に力をつけることができた。</p> <p>○防災訓練等を通して地域とも協働する機会があった。</p> <p>【課題】</p> <p>●今後もコロナ以前の活動をどう取り戻していくかを検討していく必要がある。</p> <p>●自己研鑽の推進について、より継続的に行う必要がある。</p>	

2 改善方針

- コロナウイルス感染症対策等により中止、縮小等となった体験活動等を次年度においてもどのように取り組むかを学年単位で検討していく。
- 保護者や地域の思いの共有を図るために、積極的な情報交換を行っていく。
- 職員や専門スタッフ等との連携に努め、より効果的な活用を実現していく。
- 不登校等、生徒の心の健康課題に対して専門機関と協力して早期発見、早期対応を行う。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 塩浜中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の向上・・・知	3
主な方策 成果と課題	<p>＜基礎的・基本的な力の定着＞</p> <p>○小規模校の特性を活かし、生徒一人ひとりの個性や能力をよく見極め、きめ細やかな教育活動を行うことができた。</p> <p>○量は多くないが、毎時間の宿題を通して家庭での学習をする習慣を身につけることができた。</p> <p>＜授業の工夫・改善＞</p> <p>○タブレットを活用した授業が、どの教科でも定着してきている。</p> <p>○教育アドバイザーの参観授業を、他の教員も参観する取組ができてよかった。</p> <p>○できるだけ多くの解法や考え方を身に付けられるように、一つの問題についてじっくり考える時間をとったり、互いの答えを見せ合ったりするようにした。</p> <p>＜コミュニケーション能力の育成＞</p> <p>●基礎の定着に時間がかかることがあり、思考力を伸ばすような実践があまりできなかった。</p>	
重点目標 2	いのちを尊重する教育の創造・・・徳・体	4
主な方策 成果と課題	<p>＜道徳・人権教育の充実＞</p> <p>○道徳の教科書だけでなく、教員全体で生徒の実態に合った題材を取り入れられた。</p> <p>○人権作文の作成と発表会を行い、生徒の人権意識を高めるよいきっかけとなった。</p> <p>＜将来を見据えたキャリア教育＞</p> <p>○学年に応じた部分と、学年を越えたつながりがあるキャリア教育が行えている。</p> <p>○1年次から3年間を見据えた指導計画になっている。</p> <p>＜性教育、食育、健康教育の推進＞</p> <p>○外部指導者を効果的に活用しているので、今後も続けていきたい。</p> <p>○「いのちの学習」では、自分を大切に生きていくことと、感謝の気持ちを持って支え合って生きていくことの重要性を学ぶことができた。</p> <p>○「食育」では、他校の栄養教諭に来てもらい、健康な生活を送るための食生活を学年別に学ぶことができた。</p> <p>○健康課題の方策として、歯科衛生士と養護教諭で歯の衛生について指導を行った。</p>	
重点目標 3	地域・家庭との連携した学校	4
主な方策 成果と課題	<p>＜学校自己評価・学校関係者評価の実施＞</p> <p>○年2回学校自己評価を実施し、それをもとに職員やコミュニティスクール運営協議会の委員で、日々の教育活動を振り返り、今後の学校づくりにつなげることができた。</p> <p>●学校自己評価を1、2回目ともタブレットで実施したが、昨年度の1回目に紙媒体で実施した時より、保護者の回答率が低下した。H&Sなどを通じて啓発するとともに、電子媒体や紙媒体の両方を使うやり方も検討していきたい。</p> <p>＜情報の発信・受信＞</p> <p>○学校だよりや学年（学級）通信、ホームページ等により情報をこまめに発信し、学校自己評価でも生徒・保護者とも高い満足度となっている。</p> <p>＜地域との連携＞</p> <p>○地域の方をゲストティーチャーとして招き、四日市公害に関する講話をしてもらったのはよかった。今後もさまざまなことで地域の方と連携していきたい。</p>	

重点目標 4	特別支援教育の充実	4
主な方策 成果と課題	<p><校内支援体制の確立> ○特別支援教育推進委員会を定例会し、支援体制の充実、及び生徒の情報交換に努めている。委員会の内容は非常勤講師も含め、全職員で共有している。 ○小規模校の特性を活かし、支援を必要とする生徒を全体で見守る体制が構築できている。 ○非常勤講師も含め全教員が特別支援学級の授業を担当しており、該当生徒の状態を把握しやすい。 ○スクールカウンセラーが来校した時には、職員と情報共有を図りながら専門的な立場から助言をもらい、大変役に立っている。</p> <p><個に応じた教育の実践> ○学年によっては、習熟度でクラスを分けたり、個人の能力に応じて長期休業中の課題を選ばせたりすることができた。 ●きめ細かい指導ができていますが、学力の定着が難しいときがある。</p>	

重点目標 5	教師力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p><校内研修の充実> ○全教員による授業公開を行い、お互いの授業を参観する機会が多く、個々の研鑽を積み上げることができている。 ○ICT機器の使い方の工夫を教員間で交流し、よりよい教育活動に活かすことができている。 ●全教科を通じての授業の統一性が薄いため、授業の流れや視覚的な部分で統一できると、生徒はどの授業でも同じ流れで学習を進めることができる。 ●研修テーマをさらに明確なものにし、どの教科でも通年で実践していくことを決め、それらの振り返りをその都度行うことが必要である。</p> <p><保小中中の連携> ○文化祭には校区内の小学5・6年生が参加し、素晴らしい合唱を披露してくれた。 ●「学びの一体化」が授業公開と事後研修会というパターン化されたものになってきているため、それぞれにとって有益なものになるよう模索していきたい。</p>	

2 改善方針

- ・学校づくりビジョンのさらなる浸透を図るために、具体的方策を常に意識した学習活動や学校行事の立案に努める。
- ・働き方改革を意識しながら、全職員が充実感を持って生き生きと働き、生徒にとって模範的な行動・言動を心がける。
- ・家庭での学習が定着できるように、個に応じた課題（宿題）を与え、一人ひとりの今ある学力の向上をめざす。
- ・全国学力・学習状況調査やみえスタディチェック、あるいはリテラス等の結果をPDCAサイクルをもとに全教員で分析し、学力や言語活用能力の定着を図っていく。
- ・さまざまな研修会や研究協議会等の場を活用し、さらに「わかる授業・楽しい授業」になるように教材研究に取り組み、教師力の向上をめざす。
- ・今後も不登校生徒や問題を抱えた生徒に対して、スクールカウンセラー、教育相談員、民生委員などとの協力体制や外部機関との連携をさらに強化し、すべてにおいて生徒ファーストになるようにさまざまな解決方法を模索していく。
- ・学校評価アンケートの結果を多方面から分析し、保護者や地域にとってより信頼される学校をめざし、全職員が「チーム塩浜」の一員として取り組んでいく。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 山手中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	学力の向上と指導の充実（知）	3
主な方策 成果と課題	<p>コロナ禍において様々な制約が課される中での教育活動となったため、特に小集団を活用した活動に関しての不自由さはあったが、この目標に対するアンケートの平均値は、「分かる授業」では教師3.3ポイント、生徒3.4ポイント。「特色ある教育課程の編成」では教師3.3ポイント、生徒3.2ポイントと比較的高い評価となった。具体的な成果としては、</p> <p>(1) ICTを活用した授業が活発に行われ、一層推進された。 (2) TTを活用し、支援が必要な生徒に対して柔軟に対応できている。</p> <p>一方、課題としては、</p> <p>(1) 学習習慣が定着していない生徒への個別の対応。基礎学力に課題がある生徒が増加傾向。 (2) 発信力はあるが、対面のコミュニケーション力には弱さがある。 など挙げられる。さらに研修を深める必要がある。</p>	
重点目標 2	心の教育の推進（徳）	3
主な方策 成果と課題	<p>教育相談やふれあい指導等を通して、生徒に寄り添い、話を聞ける機会を確保できたことは効果的であった。しかし、不登校あるいはその傾向にある生徒数が増加の傾向にあるため、他の機関とも連携を取りながら指導に当たっている。</p> <p>SNSを介した、コミュニケーション力の未熟さからくと思われるトラブルが絶えず、その都度指導をしているが、学校だけでなく家庭におけるルール作りやマナー指導も必要である。</p> <p>道徳の授業については、十分に時間を確保し、生徒に考えさせる機会を大切にしてきた。また、日常活動のあらゆる場面において道徳教育を行うべきであり、その意識を持つことが必要ある。</p> <p>地域の方から本校の生徒がよく挨拶をしてくれるので嬉しい、といった客観的な評価を頂くことが何度もあった。当たり前のことを当たり前続けていくように、指導を継続していきたいと思う。</p>	
重点目標 3	健康・安全教育の徹底（体）	3
主な方策 成果と課題	<p>学校の施設設備についての教師アンケートの平均値は2.8ポイント、保護者に対する同等の回答でも2.8ポイントで、共通して低い値となった。要因としては、施設や設備の老朽化が挙げられる。</p> <p>施設設備の老朽化については、必要に応じて危険度の高いものから、修理・改修を行い、施設・設備が原因となる「防げる事故」を無くすように努めた。しかし、予算や修繕の規模により、年度内に修繕が叶わなかった箇所も残されている為、次年度に引継いでいきたい。</p> <p>交通安全意識については、毎年のように、登下校中の自転車通学者の交通事故が多発している。本年度も、幸いにも大事故には繋がらなかったものの、自動車との接触事故が複数件あり、ヒヤリハットを含むかなりの潜在的な危険があると予想できるため、より一層、交通安全に関わる指導が必要だと思われる。</p>	

重点目標 4	地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>この目標に対しては、今年もコロナ禍の中、様々な制約を受け、中止或いは縮小したイベント等が多かったが、徐々に以前の状態に戻そうとする取り組みは進めてきた。</p> <p>学校行事として、体育祭、文化祭ともに保護者の参加は制限したため、開催方法を工夫して公開できなかったのか、という反省は多かった。本校は600名を超える大規模校が故の苦しい判断となったが、次年度に活かしたい。</p> <p>P T Aが関係する歴史のある取り組みが、本校にはいくつもあるが、生徒や保護者、教職員もここ数年でそれらを経験してきた人が徐々に少なくなり、新しい形で再構築していく時期となっているように感じられる。そんな中、地域清掃行事である「クリーン大作戦」が、地域の方々の協力を頂きながら再開することができたことは大きい。</p> <p>さらに学校ホームページやH & Sを使った情報発信の機会も増え、地域とつながりを深めていくことができたと思われる。</p>	

重点目標 5	教師の専門性と資質の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>学習指導要領のねらいに沿った授業づくりや評価方法のあり方、ICTの導入に伴う活用の研修、教師の操作技術の差など、教師の専門性の向上が求められていることは多い。またハード面だけでなく、昨今の支援の必要性から教育相談などにおけるカウンセリングスキルの向上などソフト面の充実も必要である。</p> <p>本校はここ数年、大変落ち着いた状態であるため、だからこそ安心してさらなる研修と研鑽を深めていかなければならない。また、特別支援教育についての研修を深め、子どもたち一人一人の特性に応じた支援が行えるように、共通理解を深めていく機会を設けるべきである。</p> <p>またコンプライアンスミーティングをタイミングよく実施し、常に教師としての自覚を意識していく機会を設けていく。</p>	

2 改善方針

- ・「チーム山手」として職員が動ける体制を強化していく。横と縦の報連相をより確実にし、必要な情報を鮮度の良い状態で共有していく。
- ・発信力の向上。学校ホームページの更新を頻繁にして、学校の中の様子をタイムリーに公開していくこと。
- ・過去の踏襲、と言う形は楽に進むが、それに頼るのではなく常に向上心を持って、行事や活動の計画および実行に反映させていく。
- ・特別支援に焦点を当てた研修。
- ・与えるだけの教師主導の授業ではなく、論理的に物事の説明を出来る能力の醸成を見据えた授業づくりや、自己決定の場を意識的に設けていく企てなど、校内研修会やO J Tを通して教師のスキルアップを図っていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 富洲原中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	学びの共働体づくり、学び合う授業づくり 聴き合い、学び合うかわりを大切にし、ひとり一人の生徒が意欲的に取り組み、響き合える授業を作ります。	3
主な方策 成果と課題	主な方策 (1) 研修会を充実させ教師の授業力の向上を図る。 (2) 中学校区「学びの一体化」の取組の充実を図る。 (3) 体力の向上に努める。 (4) 習熟度別学習・少人数・ITを充実させ生徒の学習意欲とともに学力の向上を図る。 成果と課題 ○「指導と評価の一体化」を意識した単元・授業づくりの取組が3年目となり、各教科の授業において、単元を貫く問い(学習課題)を考えさせるために、単元・授業づくりを通して、パフォーマンス課題を設定し、ルーブリックをもとに評価することが根付いてきている。このことにより、生徒たちの思考力や書く力が少しずつ向上してきている。教職員の研修会への積極的な参加や日常的な授業交流を進めることにより、さらなる授業力の向上を図りたい。 ○学びの一体化については、中学校から小学校への乗り入れ授業だけでなく、人権講演会や授業体験など、小学校6年生の中学校への来校機会を増やし、中学入学時のギャップを少なくするように取り組んでいる。 ○タブレットを文房具の一つとして授業で使用できるよう、ICTサポータを活用し、教職員の技術向上を図っている。	
重点目標 2	学びの共働体づくり、学び合う授業づくり 聴き合い、学び合うかわりを大切にし、ひとり一人の生徒が意欲的に取り組み、響き合える授業を作ります。	3
主な方策 成果と課題	主な方策 (1) 全職員による教育相談、特別支援教育の充実を図る。 (2) 温かみのある生徒指導に取り組み、問題行動の予防を図る。 (3) 自分を大切にし、命を尊重する人権教育や道徳教育、体験活動の充実を図る。 (4) 生徒会活動を通して気持ちを理解し合える人間関係を育む。 成果と課題 ○生徒玄関や教室前での朝の挨拶や健康観察を継続して行っている。また、休み時間等に、生徒の様子の見守りや声かけを行い、一人ひとりに寄り添う支援を行っている。 ○学期に一回以上の教育相談を実施している。また、全職員で全生徒の情報の共有を図り、適切な支援・指導を行うように努めた。 ○生徒会活動が生徒主体となるように、生徒の意見を具体化していける目標をあげて取組を進めている。	

重点目標 3	地域とともにある学校 学校内外で地域とともにある教育活動に取り組み、生徒・保護者・地域・学校の相互理解を図ります。	3
主な方策 成果と課題	<p>主な方策</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学校の教育活動をいつでもだれにでも公開する。 (2) 地域（人材・歴史・文化・産業）を学習の舞台として活用する。 (3) 生徒会活動の活性化を図り、自主活動体験活動を支援し充実させる。 (4) 学校や生徒の活動が見える学校環境の整備に努める。 (5) 部活動を通して、人間形成を図る。 (6) 定時退校日の設定、総勤務時間縮減に向けた取り組みを家庭・地域の理解のもとに進める。 <p>成果と課題</p> <p>○授業参観や総合的な学習の発表会の実施、学校HPや通信などを通じて、地域や保護者に学校教育活動の情報を積極的に発信するなど、生徒の主体的な学びの姿を見ていただく機会を増やした。また、職業講話等で地域の方に講師をしていただいたり、生徒が地域行事に積極的に参加したりするなど、地域とのつながりを大切にしている。</p> <p>○校則の改正・あいさつ運動・ピンクシャツデーの取組など、生徒会を中心とした活動を行うことで、生徒自身に学校生活での望ましい姿などを一緒に考えていくことができた。</p> <p>○学校行事を工夫しながら実施し、保護者には見学をしていただく機会を保障した。また、タイムリーにHPを更新したり、校内掲示を行うなど、「学校の様子見える化」を図った。</p> <p>○定時退校日には電話対応時間を勤務時間内とし、また、「NO！部活動の日」には可能な限り会議設定をしないなど、定時退校できる環境づくりに努めた。</p>	

2 改善方針

<p>○学校アンケートで、「授業はわかりやすいですか」の問いに、9割以上の生徒が肯定的に回答している。しかし、保護者の評価とに差があることから、授業の様子等について保護者にも今以上に積極的に伝えていくようにしていく。</p> <p>○朝の「ベーシック学習」について、これまで「読み・書き・計算」を中心に行ってきたが、生徒の状況をふまえ、読解力の向上を図るような学習についても取り入れる方向で検討していく。</p> <p>○総合的な学習や人権教育、キャリア教育などにおいて、3年間を見通した取組を行い、教育的効果を高めるとともに、家庭とともに考えることができるようにしていく。</p> <p>○今後も継続して、朝のあいさつ・健康チェックを全職員で行っていく。また、「ほっと情報」を活用し、全職員で生徒情報の共有に努め、本校のビジョン目標である、「やわらかな環境や空間づくり」を意識し、生徒をしっかり見守り、丁寧に関わっていくことにより、事故や問題の未然防止に努める。</p> <p>○学びの一体化については、児童生徒の強みや弱みなど現状を把握したうえで、系統だてた取り組みとなるよう、より一層連携を強めていく。</p>
--

自己評価書

四日市市立 富田中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	授業を大切にしている学校	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(1) 【確かな学力の定着】</p> <p>①授業公開を軸とした「主体的・対話的で深い学び」を実現させる授業づくり</p> <p>②「全国学力・学習状況調査」等の結果分析に基づいた授業改善、基礎・基本の定着</p> <p>③ICT機器を効果的に活用した教育活動の充実</p> <p>④学習習慣の定着を意図した授業等における指導の工夫、家庭との連携</p> <p><成果と課題></p> <p>○授業に関する学校自己評価アンケートでは「楽しく学べ、自分を高めることができているか」（生徒85%、保護者76%）、「考える・話す・表現することに意欲的に取り組んでいるか」（生徒81%、保護者76%）と肯定的に回答している。特に「タブレットは学習の役に立っているか」という質問では、2年生が100%肯定的な回答をするなど、高い数値が見られた。今後も一層のICT活用をふくめ、学ぶ楽しさや自己の成長が感じられるような主体的で対話的な深い学びを目指した授業改善を進めていきたい。</p> <p>○一方「家庭の学習に自主的かつ日常的に取り組んでいるか」については、例年とほぼ変わらない結果（生徒71%、保護者61%）だが、なかなか家庭学習が定着していない生徒も存在している。家庭学習の定着に向けて、タブレットをさらに活用したり、富中タイム（帯学習）の取組を見直したりして家庭との連携を進めていく。</p> <p>○「体育の授業などに積極的に参加し、体力を高めることを意識して生活できているか」という質問では、昨年度と比べ、生徒の肯定的な回答が13ポイント上がっている。今後も体育の授業を中核として、活動を継続したい。</p> <p>(2) 【こころとからだの健全な育成】</p> <p>①「健全な生活習慣」の定着</p> <p>②社会や他者との関わりについての意識向上や規範意識の定着を目指した教育活動の実施</p> <p>③多様な人権を尊重し、差別やいじめを許さない風土を育む「人権学習」の実施</p> <p>④「確かに生きる」ための基盤となる道徳性を養う授業等の実施</p> <p>⑤朝の読書の実施、各教科での図書室の活用、家庭との連携等による読書活動の充実</p> <p>⑥保健体育の授業や学校行事における、運動意欲の向上、体力の増進及び食育指導</p> <p>⑦学校三師と連携した「学校保健委員会」における健康状況や生活実態の把握と分析及び専門家による指導・助言の活用</p>	

重点目標 1	授業を大切にしている学校	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><成果と課題></p> <p>○「学校生活が楽しい」と感じている生徒は88%以上で、昨年度より微増という結果だった。コロナ禍における教育活動の制限が徐々に緩和されたことにより、感染防止対策を講じながら、コロナ禍以前のような教育活動が進められたことが要因と考えられる。一方で保護者は85%と昨年度より5ポイント下がっている。来年度は2・3年生の家庭訪問の枠を広げるなど、より一層学校と家庭との円滑な連携をはかりたい。</p> <p>○「ルールを守っているか」「心を込めてあいさつをしているか」という質問では、ともに90%以上の生徒が肯定的に回答している。今後もルールやあいさつの意義を生徒とともに考えながら、よりよい学校になるよう取り組みを進める。</p> <p>○「安全に気をつけて生活しているか」という質問では、97%の生徒が肯定的な回答をした。継続して、自分の命を守るために何が大切かを生徒に考えさせる時間をとるとともに、教師による登下校の指導を継続する。</p> <p>○「早寝・早起き・朝ごはんを意識して生活しているか」という質問では、肯定的な回答をした生徒が67%にとどまり、昨年度より13ポイント下回った。昨年度までの「望ましい食事や適切な睡眠を意識して生活しているか」という質問の仕方から文言を変えたことも要因の一つとして挙げられるが、睡眠時間が十分に確保されていない生徒が一定数いるという実態が浮き彫りとなった。そこで、保健委員が主体となり、全生徒対象に睡眠アンケートを実施した。その結果を保健だよりで公表するとともに、学年集会等で生徒が主体的に「睡眠不足」や「睡眠負債」について啓発する場面を設定する。</p> <p>(3)【よりよい未来社会を創造する力の育成】</p> <p>①自分の将来を見据え、社会へ参画し貢献するためのキャリア教育の推進</p> <p>②「育みたい力」を明確にした体験活動を組み込んだ授業や学校行事の実施</p> <p><成果と課題></p> <p>○「授業や学校行事を通して、有意義な体験や学びがありましたか」に関して、生徒・保護者ともに90%以上が肯定的評価であった。3年ぶりに2年生は職場体験を実施できた。1年生からキャリア学習として自分の将来や職業について考える取り組みを進めている。今後もその充実を図りたい。</p>	

重点目標 2	一人一人を大切にしている学校	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>すべての人が、心も身体も安心・安全に過ごせる学校の実現</p> <p>①自分も他者も大切にし、認め合い高め合える、全ての教育活動における人権教育の実践</p> <p>②特別支援教育の理念を大切にしたい、個に応じた生徒指導の実践</p> <p>③生徒も教職員も、安全に過ごせる環境の整備、実効性のある防災体制の整備</p> <p><成果と課題></p> <p>○生徒の「自分のことを大切にしているか」という質問では、昨年度より5ポイント下がった。特に学年が下がるほど数値が低い傾向が見られる。今後、総合的な学習の時間、学活、道徳の時間、学校行事を柱としてコロナ禍で希薄になった生徒間のつながりを意識した活動を実施していく必要がある。</p> <p>○「まわりの人の気持ちを考えて生活できているか」「どんな理由があってもいじめはいけないことだと思うか」「先生たちは生徒一人一人を大切にしているか」という質問は90%以上の肯定的な回答を得たが、一定数困っている生徒がいることにも視点を向け、学校が誰にとっても安心して過ごすことができる場所になるように、人権教育を柱とした指導や支援を継続していきたい。</p> <p>○「先生たちは授業などで生徒たちが困らないように、指導や支援を工夫しているか」という質問では、昨年度と同様90%以上の生徒が肯定的に回答している。今後もすべての生徒たちにとって学びやすい環境（ユニバーサルデザイン）が整っているか、UD化チェックを行い、定期的に点検している。その結果に基づき、絶えず改善をはかっている。</p> <p>○1・2学期に1度ずつ避難訓練を行っている。1年生では四日市北警察署までの3次避難を実施した。2年生では防災マップ作りや炊き出し訓練などを計画し実践している。</p>	

重点目標 3	保護者と地域と協働し高め合う学校	3
主な方策 成果と課題	<p>地域や社会に開かれた教育課程・学校の実現</p> <p>①授業公開、学校だより、学年通信、ホームページ等による、教育活動の積極的な発信</p> <p>②地域等の教育資源を活用した授業の実施、地域活動への参画</p> <p><成果と課題></p> <p>○「学校からの通信やホームページを見たり読んだりしていますか」では生徒60%、保護者90%が肯定的な回答であった。保護者は学校からの情報発信に関心が高いことがわかった。HP閲覧数は、210,000回（1月末現在）を超えており、昨年度を大きく上回っている。少しずつコロナ禍以前の活動に戻っている様子等、引き続き適切に発信していきたい。</p> <p>○地域との協働した学習については、現在も難しい状況となっている。その中でも、2年生の職場体験学習が2019年度以来3年ぶりに実施されるなど、生徒たちにとって有意義な活動を取り戻せつつある。キャリア学習として生徒の進路選択に有効であると考えている。さらに地域の関係機関やコミュニティスクール運営協議会委員と適切に連携しながら、取組を充実させるとともに、地域の人材や資源をうまく活用したい。</p> <p>○地域の代表者を学校にお招きし「中学生と語る富田の未来」を実施した。事前に生徒が「富田再発見」というねらいで地域内をフィールドワークをして、「持続可能なまちづくり」の視点をプレゼンテーションを行った。来ていただいた地域の方々からも好評であり、今後さらに生徒が地域で活躍できるように取り組みを継続させたい。</p>	

2 改善方針

「学校づくり三つの決意」〈令和5年度の具体的な取組内容・改善点〉

1 授業を大切に作る学校

(1) 確かな学力の定着

個人授業研修をはじめとする授業公開を軸とした「主体的・対話的で深い学び」の実現及び「問題解決能力向上」のための授業づくりを推進していく。また中学校区の「学びの一体化」をいかして、「保幼小中連携」による学びを一層深めていく。

2 一人一人を大切に作る学校

(1) 自分も他者も大切に、認め合い高め合える人権教育の実践

「自分のことを大切である」と実感できる生徒の育成を目指し、教科授業だけでなく総合的な学習の時間、学活、学校行事を人権教育の視点でとらえ、生徒同士のつながりを意識した活動を進めていく。

3 保護者や地域と協働し高め合う学校

(1) 保護者との双方向の情報共有

学校公開、学校・学年だより、ホームページ等で積極的に情報公開するだけでなく、家庭訪問やHome&Schoolを活用しながら保護者の声に耳を傾け、思いに寄り添い、相互に対話できる関係づくりを進めていく。

(2) 地域等の教育資源を活用した教育活動の実施と地域活動への参画

コミュニティスクールの効果的運営・活用など、地域の人材や資源を生かし地域との連携・協働を進める。地域の伝統行事等に生徒が積極的に参加し、まちづくりに貢献できるようにする。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 笹川中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力	3
主な方策 成果と課題	<p>①学力向上は学習改善から ②学力補充 ③学力定着につなげる家庭学習 ④生徒の学習意欲を喚起する授業 ⑤コミュニケーション力の育成</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師用、生徒用タブレットPCの利活用が進み、全教科でICT機器を活用した授業を行うことができた。 ・Basic学習やセルフアップダイアリーの活用を中心に家庭学習の定着を図り、個々の基礎学力定着に向けた取り組みを進めることができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒用タブレットPCを中心としたICTの効果的な活用場面と活用方法をさらに研究していく必要がある。 ・全国学力調査やみえスタディの結果分析を授業改善や指導改善に結び付ける取り組みをさらに進める必要がある。 	
重点目標 2	豊かな心、健やかな身体	3
主な方策 成果と課題	<p>①心や命を大切にする教育 ②読書活動の充実 ③体力・運動能力の向上 ④健康教育、食育の推進 ⑤基本的な生活習慣の確立</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動推進指定校として図書館を活用した取り組み等を充実させた。また、国語科でも、読書感想文、ビブリオバトル等の取り組みを行い、読書活動の充実をはかることができた。 ・道徳や人権学習、健康集会等で、心や命を大切にした教育ができた。また、自主制定した「ささネットルール」を確認することで、生徒の意識を高めることができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育、人権教育については、学習内容を家庭で振り返る等の取り組みを進め、家庭との連携を深めていく必要がある。 ・基本的な生活習慣の確立ができていない不登校生徒に対し、さらに家庭との信頼を深めていく必要がある。 	
重点目標 3	よりよい未来、社会を創造する力	3
主な方策 成果と課題	<p>①生き方につながるキャリア教育 ②地域の資源を生かした教育 ③安心・安全な笹川中であるために ④社会性を身につける ⑤現代的な課題に対応する力</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育としてマナーやコミュニケーションに関する講演会を行ったり、多文化共生学習として地域で活動する外国人の方をゲストティーチャーとして招いたりして、様々な立場の方からお話を聞く場を設け、学習を深めることができた。 ・コロナ禍で交流が難しい状況の中、今年も西日野にじ学園との交流をICTを使ったリモートによって行うことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS等でのトラブルについて、起こさない、巻き込まれないための知識と行動力を身につける取り組みを引き続き充実させていく必要がある。 	

重点目標 4	全ての子どもを伸ばす教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>①生徒の学習意欲を喚起する授業の創造 ②やる気につながる評価 ③生徒一人ひとりを大切にす指導 ④特別支援教育、登校支援の充実</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全生徒を対象とした教育相談を各学期に行ったり、Q U調査等の結果を検討・活用したりして、計画的に生徒理解の取り組みを進めている。 ・校内ふれあい教室による不登校生徒への支援は成果を上げている。今後も更なる充実を図っていきたい。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導体制を充実させるとともに、人権教育や特別支援教育を充実させていく。また、SST等の取り組みを取り入れ、さらにきめ細かな指導に取り組んでいく。 ・本校の課題である不登校生徒への対応については、関係機関や専門家との連携を深め、校内ふれあい教室等を活用した学びの場の提供を進めていく必要がある。 	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>①学校経営の充実 ②生徒指導の充実 ③学びの一体化の推進 ④地域と協働した学校づくり ⑤教職員の資質・能力の向上</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会や研修委員会、特別支援教育委員会、不登校対策委員会をそれぞれ毎週1回行い、計画的、組織的な指導を行うことができた。 ・学校公開週間を開催し、多くの保護者に来校してもらえた。また、保護者だけでなく地域住民の参加もあり、開かれた学校づくりに大きな効果が得られた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な支援の必要な生徒への効果的な指導を充実させていく。そのために、生徒指導委員会、研修委員会、特別支援教育委員会、不登校対策委員会等をさらに充実させていく必要がある。 ・コミュニティスクールやPTA活動等、地域との関わりにおいては、学校からの情報発信に努め、職員も生徒も主体的に地域と関わりを持つ意識改革が必要である。 	

2 改善方針

学校づくりビジョンを中心に、めざす生徒像や学校像をより明確にして、教師、生徒、保護者、地域にわかりやすく周知し、取り組みを充実させていく。また、どの分野においても積極的に対話を重ね、教師も生徒も「主体性」を高める取り組みを進める。

●確かな学力の定着【基本目標1】・学校教育力の向上【基本目標5】

・授業改善と研修の充実に取り組み、生徒の学力向上に努める。また、学校業務を見直し、教職員の時間外勤務時間の短縮に努め、教職員が意欲的に働くことができる学校をめざす。

●豊かな心、健やかな身体の育成【基本目標2】・全ての子どもを伸ばす教育の実現【基本目標4】・学校教育力の向上【基本目標5】

・生徒指導体制を充実させるとともに、人権教育や特別支援教育を充実させていく。また、来年度はエンカウンターやソーシャルスキル等を取り入れ、不登校対策にも力を入れていく。さらに合理的配慮など教職員の視点や方向性のベクトルをそろえ、支援の必要な生徒に対し、さらにきめ細かな指導に取り組んでいく。

●よりよい未来、社会を創造する力【基本目標3】

・様々な外部講師を招喚し、キャリア教育を充実させると共に、SNSトラブル回避に向けての教育を家庭と連携しながらさらに充実させていく。

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 南中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	<p>I 学力の定着と充実 *主体的・対話的で深い学びの実現 *確かな学力の定着と言語活動の充実 *ICTを活用した積極的な授業改善</p>	3
主な方策 成果と課題	<p>○タブレットを取り入れたことで、主体的な学びを促すことができた。生徒も興味を持って取り組む様子が見られる。</p> <p>○タブレットの活用で資料等が見やすくなり、説明の際にも有効であった。また、短時間のグループでの意見交換などを繰り返し取り入れることで表現する力がついたように感じる。</p> <p>○南スタの時間（帰り学活前の10分間の授業内容の振り返りの時間）やタブレットの宿題配信により家庭学習の習慣化に良い影響を与えているが、更に充実させていく必要がある。</p> <p>●生徒はタブレットの活用はできていても学習の定着には足りなかったり、意欲が継続しない生徒がいる場面があった。学力が定着するよう仕掛けていくことが課題である。</p> <p>●誰一人とりのこさない授業をしていくために、さらにグループでの活動で対話的な場面や協働作業をふやしていく。またタブレットを用いたジャムボードなどの活用も取り入れていく。</p> <p>【生徒アンケート】先生は授業をていねいに分かりやすく教えてくれ、楽しく授業を受けている。タブレットを使って学習している⇒3. 3</p> <p>【生徒アンケート】授業で学習したことは、将来の役に立つと思う。⇒3. 2</p> <p>【保護者アンケート】学校は、子どもたちにわかりやすい授業をするための工夫（ICT、タブレット少人数授業、グループ活動、実験や観察等）をしている。⇒3. 3</p>	
重点目標 2	<p>II ことごとからだの健全な育成 *道徳・人権教育・読書活動の充実 *仲間づくりを柱とした教育の充実 *体力運動能力の向上</p>	3
主な方策 成果と課題	<p>○人権教育を学校全体で取り組んでいる。仲間づくりに関して意識して取り組むことができた。</p> <p>○ボランティアの方も含めてメディアセンターを中心に読書活動が活発になるような工夫がされている。</p> <p>○体育祭や文化祭などの行事を通じて、学校行事を機に、仲間づくりの視点をもって子どもたちに関われることができた。</p> <p>○部活動や体力運動能力の向上の取り組みは、新体力テストの結果、中体連や駅伝での結果に結びついていると感じる。</p> <p>●生徒に自信を持たせ、自尊感情を高めていく取り組みや声掛けを継続的に行っていく。</p> <p>●生徒同士のつながりはまだ希薄な面がある。仲間づくりの取り組みの方法を研修していく。</p> <p>【生徒アンケート】命の大切さや人権を大切に、差別をなくすための学習が実施されている。⇒3. 5</p> <p>【生徒アンケート】部活動に積極的に意欲的に参加し、目標を持って活動している。⇒3. 4</p> <p>【保護者アンケート】学校は、豊かな心を持ち、命の大切さや人権を大切に育てるようになっている。⇒3. 2</p> <p>【生徒アンケート】朝の読書やメディアセンターを活用して、充実した読書活動を送っている。⇒2. 9</p> <p>【保護者アンケート】朝の読書やメディアセンターの取組は、子どもたちの豊かな心を育てることに役立っている。⇒3. 2</p>	

重点目標 3	Ⅲ よりよい未来社会を創造する力の育成 <ul style="list-style-type: none"> * 夢の実現に向けたキャリア教育の推進 * 持続可能な社会を目指す教育の充実 * 防災・安全教育の推進する力の育成 	3
主な方策 成果と課題	<p>○防災教室では生徒が意欲的に学ぶことができたように生徒の動きや感想から感じられた。</p> <p>○修学旅行や職場体験などの各種行事、進路指導など将来の夢を将来に対する考えを深めることができた。</p> <p>○総合学習や道徳や各教科よりSDGsの観点から自分たちの生活を振り返ることができた。</p> <p>○健康集会を開き学校三師の先生から薬物乱用防止の講演をいただき健康で安全な生活について学習することができた。</p> <p>●交通ルールやマナーの指導を粘り強く行うのと同時に地域協力者やPTAと連携していく。</p> <p>●SNSの指導を繰り返し行うとともに、保護者にも啓発していく必要がある。</p> <p>●今学んでいることが将来どのような場面で活かされるのか、そのような視点を日々の指導に取り入れた授業改善、指導改善を今後より一層図ることが必要である。</p> <p>【生徒アンケート】先生は、いじめや暴力などの問題にきちんと対応してくれる。⇒3. 4</p> <p>【生徒アンケート】あなたは、将来の夢や目標を持っている。⇒2. 9</p> <p>【保護者アンケート】学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。⇒3. 2</p> <p>【保護者アンケート】学校は、入試情報や職業について、将来を見通した進路指導に努めている。⇒3. 0</p>	

重点目標 4	Ⅳ 子ども能力を伸ばす教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> * きめ細やかな個に応じた指導の充実 * 教育的ニーズに応じた支援体制の充実 * 社会的自立に向けた支援の充実 	3
主な方策 成果と課題	<p>○教育相談や各種アンケートや家庭訪問などの取り組みを通して生徒一人一人に向き合うことを組織的に取り組むことができた。</p> <p>○SCやあすなろ、登校サポートセンターとのつながりを大切にして、欠席が続く生徒に対する支援を行うことができた。</p> <p>○少人数授業・学習指導員・教育相談員の導入により学習支援やふれあい指導などで生徒一人一人に対してより丁寧に対応できた。</p> <p>○教育委員会・SC・SSW・医療機関・児童相談所・警察・主任児童委員などの関係機関と連携することで生徒や保護者の悩みに対してチームとして支援することができた。</p> <p>○外国にルーツをもつ生徒に対して、国際ルームや通訳の方を中心に日本語や学習支援を行った。</p> <p>●組織として生徒と一人一人の支援や対応をさらに深めていくために、支援委員会や生徒指導委員会の活用を充実させていきたい。</p> <p>●不登校生徒の数が増加傾向にある。</p> <p>【生徒アンケート】あなたは、自分によいところがあると思う。⇒2. 9</p> <p>【生徒アンケート】先生は、生徒のふれあいを大切にし、親身になって接してくれる。⇒3. 4</p> <p>【保護者アンケート】学校は、挨拶に心がけ、子どものふれあいを大切にし、子どもが明るく楽しい学校生活を送れるようにしている。⇒3. 3</p>	

重点目標 5	V 学校教育力の向上 * 相互理解を重視した生徒指導の充実 * 地域と協働した学校づくりの推進 * 教職員の資質向上と働き方改革	3
主な方策 成果と課題	<p>○学校業務アシスタント・スクールサポートスタッフ・ICT支援員等の活用により、教員の業務改善や時間外勤務時間の減少につながった。</p> <p>○ホームページをはじめとしてH&S、通信により、学校の情報が地域、保護者へ届けられることができた。</p> <p>○PTAと協力してフリー参観や体育祭や人権講演会の参観や動画配信などを保護者や地域に発信することができた。</p> <p>○メディアセンター（図書室）の運営で地域との連携により生徒の読書活動に良い影響を与えている</p> <p>○CSを通して地域から学校教育活動への参画の協力を確認できた。</p> <p>○地域のお祭りでの吹奏楽部の演奏や教員の地域研修会への参加など地域と協働した取り組みを行うことができた。</p> <p>●子どもたちの周りに情報があふれている中、子供たちが主体的に判断し、他者と協働しながら、新たな価値も生み出す探求していく生徒指導を意識していく。</p> <p>●部活動や会議など教職員の時間外勤務時間についてさらに業務改善や働き方改革が必要である。</p> <p>【保護者アンケート】学校は、保護者の相談・思いや願いに対し、適切で誠実に対応し、学校の様子（各教科の教材や学校指定物品を含む）を保護者に「ホームページ」や「通信南風」等によく伝えている。⇒3. 3</p> <p>【保護者アンケート】フリー参観や行事を通し、学校を開き、保護者等の人たちが学校へ来やすくしている。⇒3. 3</p> <p>【教員アンケート】教職員としての資質向上できるよう、積極的に研修に取り組んでいる。⇒3. 6</p>	

2 改善方針

○学力向上に向けた研修の推進。ICT・タブレットを活用した授業づくり。OJTや教科部会の定期的開催。

○生徒に自信を持たせ、自尊感情を高める教育活動。

○不登校生徒・保護者の悩みを関連機関と連携を深めて行っていく。個に応じた支援。合理的配慮。

○道徳・人権教育のさらなる推進。生徒一人一人を大切に、地域と連携していく。

○特別支援教育の推進。合理的配慮。

○生徒指導の充実。生徒に寄り添った指導。教育相談の充実。保護者との連携。関連機関との連携。

○生徒指導の中で、生徒同士が問題解決に協働して取り組む教育活動の推進。

○働き方改革の推進。業務改善による時間外勤務時間の削減。

○地域とともにある学校づくり。情報発信と学校公開。CSによる地域から学校教育活動への参画。

自己評価書

四日市市立 西陵中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	<p>確かな学力の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ★基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得をはかります ★言語活動の充実と学び合いによる授業づくりをすすめます ★主体的・対話的で深い学びの実現に取り組みます ★情報活用能力と論理的思考力の育成をはかります 	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○できる喜びを実感させ、学ぶ意欲を高める視点からの授業改善に努める。</p> <p>○生徒の学習の到達度を適切に評価し、教師の指導改善に取り組みとともに生徒自らの学習改善の取り組みも推進する。</p> <p>○生徒が意見を交換したり考えを共有するためのツールとしてICTを活用し学習を深める。</p> <p>○教育活動全般でICTを活用し、一人ひとりに最適で効果的な学びを推進する。</p> <p>全国学力学習状況調査において2教科で全国・県の平均を上回り、残る教科も平均並みの結果となった。1・2年生のみえスタディチェックにおいては市の平均を下回る教科もあり、今後も問題解決型の授業を意識し、学ぶ意味を感じることができる授業を提供していきたい。</p> <p>指導と評価の一体化を意識した授業実践の成果として、学校アンケートの「わかる授業」「適切な評価」の肯定的回答が増加した。この結果に甘んじず、個別最適な学びの構築に努め、自ら問いを立て納得解を求める生徒を育てていきたい。</p> <p>定期的に職員のICT研修会を開催し、全職員体制で研修することで、一人1台タブレットの活用も進み、全職員がICTを効果的に活用した個別最適でかつ協働的活動を意識した授業づくりに取り組むことができた。今後もICTの活用やコミュニケーションの重視により、論理的な思考の過程を大切に授業を想像していく。</p>	
重点目標 2	<p>豊かな心と健やかな体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ★豊かな人間性と感性、健やかな体の育成をはかります ★当たり前前の方が当たり前前のできる指導を徹底します ★社会的・職業的自立と、夢や志の実現をはかります ★多様性を尊重し、人権意識の育成をはかります 	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○認め合い高め合う仲間づくりを進め、思いやりのある集団を育てる。</p> <p>○体験学習や校外活動をととして社会のルールやマナーを育てる。</p> <p>○生徒会活動や学級の係活動等を充実させ、参画意識を持たせる指導を推進する。</p> <p>○「考え・議論する」道徳の授業研究を行い、生徒の道徳性を磨く。</p> <p>学校アンケートの「仲間づくり」の項目では生徒・保護者共に肯定的な評価が増加しており、本校の取組が一定の評価を得ると考えられる。しかし、いじめの認知や不登校生徒等個々の課題は残ってはおり、引き続き全ての生徒に視点を当てた指導を心がける必要がある。</p> <p>自身の夢や志を育むキャリア講演会や体験学習活動を通じて、社会のルールやマナーを学んだ。保護者アンケートでは昨年度と比較し最も高い上昇率であった。また、生徒会では「ありたい自分」の姿を見つめ、自律の意識を高め合うことを目的として生徒心得について話し合ったり、いじめ標語・ピンクシャツ運動・生徒会レクに取り組んだりする活動の中で、生徒同士の繋がりを深め、参画意識を高めた。</p> <p>道徳の授業についても、研修の柱の一つとして公開授業を行うなど職員の研修にも取り組んだ結果として保護者アンケートも6ポイント上昇した。今後も自己の生き方を追究する道徳の実践を目指し研修を深めていきたい。</p>	

重点目標 3	<p>地域とともにある学校の構築</p> <p>★中学生の地域活動への参画に取り組みます</p> <p>★学校と家庭・地域が連携し、子どもを支える仕組みを構築します</p>	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○社会的な課題への問題意識を持ち、自ら解決しようとする力を育成する。</p> <p>○学校公開日の取組みやホームページ、通信での情報発信により学校を地域に公開する。</p> <p>○各種教育活動において地域人材、外部人材の積極的活用を図る。</p> <p>社会的な課題への問題意識を持てるよう、新聞を活用した学習に取り組んできた。教科授業や道徳科での新聞記事の活用はもとより、各学年の廊下に新聞を2誌配置し、手に取りやすい環境を整えた。機会を捉え「なぜそうなのか」「どちらが正しいのか」「それは本当に真実なのか」と問うことの大切さを生徒に伝えた。併せて、今後も自らの問をもって納得解を求める態度を養っていききたい。</p> <p>四日市市版コミュニティスクールの活動も2年目を迎え、地域とともにある学校づくりを進めようと生徒が主体的に活動できる取組の実現を図ってきた。学校公開日の実施では昨年度までよりもより多くの保護者に来校頂き、地域の皆様とも意見交換する場を持てた。またH.P.を毎日更新し授業の様子や内容、学習のねらいなどを発信することで学校の活動状況を保護者や地域に知らせ、学校アンケートでも高い肯定的な評価を得た。</p> <p>今年度は職場体験学習や地域に出での奉仕活動、地域の方を講師として迎えた各種講演会などを実施することができたことは良かったと考える。今後も「Withコロナ」の時代へと移行する中で、地域活動への積極的な連携を進めていきたい。</p>	
重点目標 4	<p>学校の教育力の向上</p> <p>★小中の連携による「学びの一体化」の充実をはかります</p> <p>★特別支援教育の充実をはかり、個に応じたきめ細やかな指導を推進します</p>	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○「学びの一体化」の取組みを充実させ、小中間の交流を深める。</p> <p>○特別支援委員会を定期的に実施し、推進体制と合理的配慮を踏まえた教育活動の充実を図る。</p> <p>○生徒一人ひとりのニーズを把握し、自己肯定感を高めるために見通しを持った支援を行う。</p> <p>本校の人権学習や道徳科の授業の様子を校区小学校の教員に公開し、意見交流や情報交換の場を持った。夏休みの補充学習に小学校教員が補助に入ったり、中学教員が小学校で授業を行うことで、相互に児童生徒に直接指導しながら交流できることは校区連携の成果を生んでいる。また、人権フォーラムでの中学1年生全員と校区小学6年生全員による交流は、学びをつなげる意味でも有効であった。小学校の卒業や中学校予備登校を前に、中学生と小学6年生とをオンラインで結び、学校生活を紹介したり、小学生からの質問を受けて中学生が答えたりする取り組みは、中学入学の不安を解消する一助になっていると考える。</p> <p>特別支援教育については特別支援委員会を毎週実施し、支援が必要な生徒の情報交換と支援方法について協議を行い、全校体制で取り組んでいる。特別支援コーディネーターが各小学校を訪問し、入学予定児童の様子を、参観、情報の共有を行うことは中1ギャップ解消への一助となっていると思われる。また、SCや外部機関とも連携し、一人ひとりに応じた支援体制を模索しているが、不登校生徒も一定数在籍しており今後の課題である。</p>	

2 改善方針

<p>確かな学力の定着と向上のために、今年度も全国学力学習状況調査やみえスタディ・チェックの問題や生徒の解答を、研修委員会を中心に全職員で検討し、現状把握と改善方法を検討してきた。この取組を継続しつつ、きめ細かく個別最適で多様な学びの構築を図り、論理的な思考過程が充実する授業の創造を実現するために、物事の本質や違い・関連を見抜く力の育成や情報や考えを吟味し、再構築する力の育成に有効な授業実践に取組めるよう全校体制で研修を深めていきたい。</p> <p>豊かな心と健やかな体の育成については、いじめ・不登校など教育課題は山積しており、引き続き一人ひとりの個に応じた対応と人権教育を核とした仲間づくりに力を入れ、対話と協働を通じた自他尊重の人格形成を促していきたい。また、道徳科を要として学校の教育活動全体として取り組み、自己の生き方を追究する「道徳」を実践していく。さらに、心身の健康・安全面等の自己管理を徹底するなど自律・自製の心を養っていききたい。</p> <p>地域とともにある学校の構築については、今年度もコロナ禍のために地域との交流には一定の制限を設けざるを得なかった。そんな中、職場体験学習や地域での奉仕活動等、感染症対策を施しながら実施できた。今後はWithコロナの時代に移行していくこともあり、生徒による地域活動への積極的な参画を図っていききたい。また、家庭・地域へのきめ細かな発信と啓発を行うとともに、要望の積極的受信、素早く誠実な対応をおこなっていききたい。</p> <p>学校の教育力・教師力の向上については、これまで同様に「学校教育目標」を最上位に据えた合意形成を意識し、自己目標と対話による資質能力と組織力向上を目指していききたい。また、常に課題の洗い出し等による工夫・改善と効率化を図ることで“未来”をたくましくきり拓く生徒の育成に向けて努力していく。</p>

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 三滝中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	【知】 確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先生は基礎的基本的な内容をていねいに分かりやすく教えてくれる」と回答した生徒は96%であった。教師が基礎・基本を定着させるための授業改善に努めることができた。 ・「授業中意欲を持ち、友だちと教え合ったり、深め合ったりして学習している」と答えた生徒が90%であった。コロナ禍で、制限された中であつたが、工夫しながらグループ活動や話し合い活動等行ってきた結果であるが、授業づくりの工夫改善は、継続して取り組んでいく必要である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「少人数指導や個別学習、ティームティーチングなど、一人ひとりに合わせて分かりやすく教えてくれる。」と回答した生徒は87%であった。少人数での指導は継続していきたい。また、少しでも個人の課題を克服していける授業の工夫等が必要である。 	
重点目標 2	【徳】 豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校教育目標が『人を大切にする』であることを知っていて、その実現にむけて努力している」と回答した生徒が94%と昨年度より2ポイント高くなり、学校教育目標を理解して活動できている。 ・「学校では、興味ある授業や意欲を持って取り組める行事が行われている」と回答した生徒が92%いた。引き続き、コロナ禍のなかでも生徒の興味・関心の高められるような授業づくりや行事運営について考えていきたい。 ・「人権学習を通して、一人ひとりを大切に、いじめや差別を許さない態度が身についてきている」と回答した生徒が94%であった。記述回答で人権学習の大切さについて回答している生徒もいて、成果が実感できていると考えられる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「『朝の読書』などの読書活動により、自分の読書に対する関心が高くなってきている」と回答した生徒は84%で、昨年度より4ポイント減少した。心を育むとともに、読解力を高めるためにも読書活動は大切であることを再確認し、取り組み方を見直していく。 	
重点目標 3	【体】 健康・体力の向上 【安】 安心・安全	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学級や学年での友だち関係がうまくいき、楽しい学校生活が送れている」と回答した生徒が92%、「健康で安全な学校生活を送ることができている」と回答した生徒が95%と、学校が安心して過ごすことができる場所であると答えている。 ・「部活動や委員会活動に積極的に参加している」と回答した生徒は94%であった。多くの生徒が課外活動に積極的に参加できていると考える。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分を含め、学校全体として、学校生活のルールが守られている」と回答した生徒が91%と昨年度より6ポイント高くなったが、教師の「生活の基本となる事項の定着を図っている」の否定的評価が30%という結果であったことから、「報連相」をきちんと行い教師間で生徒の情報や指導上の共通理解を図りながら取組（指導）を進める必要がある。 	

重点目標 4	【開】 保護者・地域・関係機関との協働・連携	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校を公開したり、学校通信を発行したりして、連携を深めようと努めている」と回答した保護者が93%で4ポイント高くなった。引き続き、丁寧に情報発信を心がけていく。 ・本年度もコロナ禍により保護者参観等の行事も制限を加えていたが、体育大会や三滝祭（文化祭）では参観の条件を工夫し大勢の保護者の方に来校していただくことができた。学校教育活動に関心が高い地域であることは大変ありがたいことである。 ・ホームページや学校通信等、情報発信してきたことで、ホームページの閲覧数も増えている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のなか、学校と保護者・地域とがどのように連携を図っていくか、今後の検討課題である。 	

2 改善方針

<p>○ 学校づくりビジョン達成に向けて、引き続き、教科指導、学級経営、生徒指導、進路指導等に対し、『チーム三滝』を意識して取り組むことが大切である。</p> <p>○ 学力向上の取組・教科学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習面において、生徒、保護者の肯定的評価が一層高まるよう、指導の充実を図り取組の発信に努める。学力向上システム『MITAKI』の実践継続、学習用タブレットの効果的な活用、個に応じた指導、教員の授業実践研修の充実や基礎学習・補充学習の活用・充実を図る。 ・地域子ども教室『三滝未来塾』が生徒の学習支援の場として有効な活動となるよう、地域との協力を継続発展させていく。 <p>○ 落ち着いた学校生活環境の継続徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援・不登校対策委員会を中心にSCやSSW・各関係機関との連携を図りながら相談体制・支援体制を充実させていく。また、生徒間の主体的な問題解決の取組を実践することで、自分たちの学校を自分たちでつくる意識の高揚につなげる。 <p>○ 人権・福祉・環境教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし等の高齢者の方への色紙を贈る取組は、地域と学校をつなぐ貴重な活動として継続（協力）していきたい。 ・さまざまな分野の方と生徒との交流体験の充実を図る。 <p>○ 家庭や地域の信頼に応える学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な通信の発行及び学校HPの更新による情報発信は学校の大切な取組となる。コロナ禍のなかではあるが、今年度は地域防災訓練への参加・桜の保全活動など新たな取組を始めた。引き続き、地域との連携に努め、教師・生徒の地域への参画・協働を進める。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 大池中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>○言語活動、学び合いのある授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍の制限ある中で一方的にならないよう意識したことで、十分ではなかったが学び合いに取り組むことができた。・英語のペアができていないことが、今後の課題である。・話し方、聴き方スキルアップがきちんと定着していくように取り組みを進める。 <p>○全教科におけるICT機器の積極的な活用</p> <ul style="list-style-type: none">・ICTを使って学習の幅が広がった。・タブレットを含むICTを上手に活用した授業づくりの必要性を感じる。ICT使用が難しいと感じる場面が多いため、それに特化した研修を推進していくことが大切である。 <p>○「トライやるタイム」による基礎的基本的な知識、技能の定着</p> <ul style="list-style-type: none">・10分間だが、生徒の様子もわかり、大切な時間だと感じる。・タブレットでドリルパークに取り組み、自己評価と担任確認で基礎的な学力の定着につながっている。 <p>○「自主学習ノート」で家庭学習の習慣化</p> <ul style="list-style-type: none">・上手に学習している生徒のノートの紹介や取り組み方を、時間をとって教えることも大切である。	
重点目標2	豊かな心と健全な体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○道徳教育の計画的な実践</p> <ul style="list-style-type: none">・ローテーション道徳は、教師のお互いの学びの場にもなったため良かった。・計画的に道徳に取り組み、実践できた。・教科書と指導書の展開がいつも同じ形で遣りづらかったため、検討する必要がある。・「未来へのステップ」のマナー化もあり、提示の仕方を再考しなければならない。 <p>○道徳、特別活動で外部から講師を招いた講演会の積極的な実施</p> <ul style="list-style-type: none">・学んでeネットやSSピンポン、本校卒業生のピアニストなどの外部講師による講演会を開催し、振り返りも行えた。 <p>○合唱活動による感性や情緒の育成</p> <ul style="list-style-type: none">・タテ割合唱練習などで上級生の合唱を生で聴く機会があり、上級生の素敵な歌声やリーダーシップを発揮した指導方法、指揮者や伴奏者の感情あふれる表現等を下級生が見聴きすることができたため、いつかは自分たちもという憧れをもつことができ、意欲の向上だけでなく感性も磨かれた。・音楽の授業の様子もあるが、もう少し歌ってから取り組みに入っていると生徒は自信を持って声を出せたかもしれない。 <p>○地域と協働した人権学習の実施</p> <ul style="list-style-type: none">・親子人権講演会やSSピンポン体験と講演会をおこなった。	

重点目標 3	よりよい社会を創造する力の育成	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○日常の学校生活における集団づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー会を中心とした取り組みや、班長会による班編成を通して集団づくりに取り組んだ。 ・行事ではリーダー会を中心に、「最高学年としてやりきる。」ということ意識して取り組むことができた。しかし、自ら考え行動していく力が弱いので、学級活動で考える場面をもっと増やしていかなければならない。 <p>○職場体験など体験的なキャリア学習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、パスカードと職業調べを行った。 ・制限のある中で、キャリアパスポートを使い、自分に必要な力や将来について継続的に考えていく取り組み等、各学年でキャリアを意識した学習に取り組むことができた。 ・2年生は、複数の職種の方をお招きし、それぞれの仕事について講演会として開催することができた。 ・全教科・学校生活全般で力をつけていくべきものと捉えていく。 <p>○地域資源を活かした環境学習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業などに来校していただいて、講演する形もよかったと感じる。様々な職種も今後導入できたら良いと思う。 <p>○学校行事を通じた自主性、社会性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然教室や修学旅行の取り組みを通して、室長・書記・班長などがリーダーシップを取り、自主性の成長が見られた。 ・学年集会での、生徒への呼びかけや講話などで社会性を促した。 <p>○関係機関と連携した安全教室等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防署職員による防災教室（起震車体験・救急救命法）を実施した。 	

重点目標 4	子どもの学びを支える学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【一人一人の子どもを伸ばす教育の実現】</p> <p>○不登校の未然防止と改善の組織的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席者への家庭訪問、不登校生徒への校内ふれあい教室の紹介などの取り組みを行った。 ・校内ふれあい教室が不登校生徒にとってのよりどころとなり、生徒の頑張る姿が見られた。 ・未然防止という点では、リスクのある生徒や保護者に対して対応してきた。 ・不登校生徒は、早い時点で専門的な関係機関とつなげていかななくてはいけない。 <p>○ティーム・ティーチング等の効果的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学教師が2名になり、細かな指導もでき、保護者からも好評である。 ・少人数を優先した取り組みを推進したい。 <p>○相談支援ファイルの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期から記載し、保護者からの要望を反映できた。 ・支援の仕方が多岐にわたっており、効率よく活用できていない。今後も対象生徒が増えていくと予測されるため、一つの空間の中でなかなか支援しづらいのが現状である。 <p>○日常的な教育相談等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この部分を担うのが、自主学ノートだと感じているため、皆で大切にしていく。 ・生活指導にかかわる教育相談を多数実施することができたため効果をあげた。その様子を見て細かな相談にくる生徒も多い。 <p>【学校教育力の向上】</p> <p>○保護者・地域への学校HP等を活用した積極的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校長によるわかりやすい学校HPの毎日更新は保護者や地域から好評である。 ・学年通信を毎週発行できたことにより、生徒の様子を保護者へ伝えることができた。 <p>○地域人材を活用した学習の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域子ども教室」でご指導いただき、生徒たちが参加できた。 ・3年生は海先生に音楽授業の指導をしていただき学ぶところが大きかった。また、合唱コンクールの審査員として来ていただき分かりやすく講評していただけてよかった。 <p>○教職員、専門家による「チーム学校」の確率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の悩みに対しカウンセラーへすぐにつなぐことができた。 ・スーパーバイザーや指導課からの助言を受け指導に役立てた。 <p>○教職員の積極的な研修の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修に積極的に参加し、研修を深めることができた。 	

2 改善方針

- ・学年間の情報交流が必要である。
- ・すぐにあきらめる生徒が多いため、学習内容の精選（教材の選び方も含め）をし、粘り強く取り組ませていく指導が必要である。
- ・生徒たちの学年内でのつながりだけでなく、他学年との縦のつながりも強固にしていく取り組みを模索していく。
- ・各種調査をしているが、その分析が指導に活かしきれていないので、今後は結果をどのように指導に組み入れていくかを具体的に考えていく必要がある。
- ・コミュニケーション能力が低下しているので、ワークショップ等をもっと取り入れ、コミュニケーションの能力の向上をはかる。

自己評価書

四日市市立 朝明中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	和 豊かな心の育成～人権教育や豊かな人間性を育む教育	3
主な方策 成果と課題	<p><アンケート結果> 「道徳・人権教育の充実」3.6P(生徒)、3.4P(教職員) 「生徒指導上の問題への対応」3.5P(生徒)、3.1P(教職員) 「特色ある教育課程の編成」3.5P(生徒)、3.3P(教職員)</p> <p><成果> ○校訓の一つである「和」の取り組みとしての「箏」に関しては、全学年で専門家の教えの下で演奏等を学び、充実した学習となった。 ○今年度より様々な分野の外部講師を呼んでの学習を開催可能な範囲で再開した。「総合的な学習の時間」を中心に、地域学習やHUG学習、マナー講座など特色ある取り組みを進め、学習を深めることができた。 ○教職員が休み時間や昼休み等も学年フロアに行き、常に生徒とコミュニケーションを図ることを大切に。教育相談の充実を含め、生徒との信頼関係の構築を全校体制で取り組めた。また、外部の関係機関との連携も深めることができた。 ○人権・同和教育や道徳教育に関しては、各学年が年間カリキュラムに沿って計画的に取り組めた。また、道徳の研究授業を外部に公開したり、いじめに関する講演会を開催したため、生徒の評価ポイントが高くなっている。 ○キャリア教育、進路指導の一環として、職場体験学習を大部分で再開することができた。実際に社会に出ての学習であったため、より一層、目的や目標を持って学ぶ姿がみられ、生徒・保護者の評価も高かった。</p> <p><課題> ●SNS上での悪口やいじめは悪いことと理解していても、日常の行動では実践できない事案が多々発生した。日頃の指導と教職員の人権意識の向上が必要である。 ●生徒指導について、情報共有や組織的な対応を充実させ、生徒に寄り添った指導の連携を図っていく。 ●交通ルールのマナーが大きな課題となっている。生徒への安全指導を行い、保護者や地域と共に課題解決に向けて取り組んでいく。</p>	
重点目標 2	学 確かな学力の育成～個の力を高め、自主的・主体的に学ぶ姿勢を育てる教育	3
主な方策 成果と課題	<p><アンケート結果> 「わかる授業」3.5P(生徒)、3.4P(教職員) 「特色ある教育課程の編成」3.5P(生徒)、3.3P(教職員)</p> <p><成果> ○基礎学力の向上を目指し、帰り学活で各学年で基礎基本の反復練習を中心とした補充学習や進路学習を実施した。また、定期テスト時の質問日を数日間ずつ実施した。 ○ICTの活用については、教育委員会から講師を招聘しタブレット活用研修を開催した。そこで研修した内容を教職員がそれぞれ教科や学級で工夫を加えて実践していく中で、活用のスキル向上を図ることができた。さらに欠席者に対してのリモート授業もほぼ順調に実施できた。 ○校内研修では、道徳教育の効果的な指導方法を進めるために、外部講師を招聘し、地域での公開授業を開催した。その中で新たな視点での授業づくりに前向きに取り組む、全教職員が道徳教育の授業力向上を図ることができた。 ○評価の研修では、「主体的に取り組む態度」について具体的な観点や資料について理解を深めた。評価検討委員会では各教科を繰り返し検証し、評価の充実に取り組んだ。</p> <p><課題> ●授業でのICT(タブレット)の日常的な活用が課題である。有意義な活用方法を外部から取り入れたり、教科部会等で利活用の具体的な方策を計画するなどして、積極的な授業への導入につなげたい。 ●「学びの一体化」では、小学校への乗り入れ授業を再開し、一体的に学習を進めることができたが、保幼小中の連携は十分にできなかった。 ●8年目となったコミュニティスクールでは、防災学習や校区内清掃など地域と関わる取り組みを再開することができた。郷土を理解する良い機会となった。</p>	

重点目標 3	鍛 健康な心身の育成～体力向上への指導の充実と健康的な生活習慣の形成～	3
主な方策 成果と課題	<p><アンケート結果> 「充実した学校生活」3.3P(生徒)、3.6P(教職員) 「部活動の充実」3.6P(生徒)、3.3P(教職員)</p> <p><成果> ○体力面では、保健体育の授業で準備運動である朝明中オリジナルの「リズム体操」を継続的に行った。また、新体力テストにおいて「立ち幅跳び」や「ハンドボール投げ」などは、全国平均を上回っており、一定の成果をあげることができた。さらに、その新体力テストでは、結果の診断個票を参考にしながら、授業で弱点を補強したり、体力向上のため、運動部で様々な補強トレーニングを行った。 ○部活動では、少しずつ制限が緩和される中、部活動ガイドラインに基づいて、短時間で効果的な活動を工夫して行い、多くの生徒が熱心に参加できた。 ○「ステップルーム」の利用者が徐々に増加し、不登校生徒や教室に入りにくい生徒にとって「居場所」となっており、地道に学ぶ姿が見られた。生徒の不安を取り除く手段の一つとして今後も活用していく。</p> <p><課題> ●今までのコロナ禍での制限の影響か、体力の低下や部活動の充実の面で課題が多く残った。今後の体力向上や部活動の在り方を含め、検討していきたい。 ●生活リズムにおいては、今年度もスマホやパソコンの利用の仕方に課題があった。年度途中から家庭へのタブレットの持ち帰りを行ったことも影響している。しかし、必要な措置であるので、外部機関も活用しながら、機器の使い方の啓発を一層進めていく。 ●学校としか繋がっていない不登校生については、居場所の確保と不安感の払拭のために必要な外部機関との積極的な連携や本校のステップルームの活用等を充実させる必要がある。</p>	

2 改善方針

<p><重点1> 「和 豊かな心の育成」</p> <p>①「人権教育」 自己的人権を守り、他者の人権を守るための実践行動ができる力を育成すること、人権教育の重要な要素である教職員自身が確かな人権感覚を身に付けることを目指す。そのために、年間カリキュラムの充実を図るとともに、講演会を開催して生の話を聞いたり、地域の施設を訪れる等、地域連携や体験活動の充実重点を置いて指導していく。</p> <p>②「道徳教育」 今年度の道徳の授業改善に向けた研修を新たな視点でさらに深化させていく。さらに生徒の思考を促し、可視化するツールとしてのICTの活用について、今後、有意義な活用方法を模索し推進していく。</p> <p>③「読書活動」 各教科授業での活用の促進をはじめ、学校図書館司書と連携し、様々な図書室利用を促進するイベントを企画し、読書活動をより一層充実できるようにする。</p> <p>④「安全教育」 今年度からの通学路変更の影響にもよるが、地域から様々な意見をいただき、新たな課題が浮き彫りになった。生徒の交通ルールに関する規範意識を高める取り組みをPTA・地域・関係機関と連携し、交通安全指導に力を入れていきたい。また、外部講師を招いた交通安全教室も実施していく。</p> <p><重点2> 「学 確かな学力の育成」 来年度は「学びあい、認め合い、高め合う 教育活動の創造」を研修主題とし、教科の公開授業や道徳の研究授業を行うとともにICTの効果的な活用に重点を置いて、研修に取り組む。</p> <p><重点3> 「鍛 健康な心身の育成」 「部活動」においては、部活動ガイドラインを遵守しつつ、精神・身体両面の総合的な人間形成を図っていきたい。 「不登校」については増加傾向にあるので、未然防止として、わかる授業づくりや魅力ある行事を実施していく。さらに初期対応を丁寧に行い、不安感の払拭に努め、居場所の確保をスクールカウンセラーや教育相談担当、関係機関と連携して、見通しをたてて取り組みを進めていきたい。</p>
--

自己評価書

四日市市立 保々中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	人を大切にし、気持ちよくあいさつする生徒を育てます	3
主な方策 成果と課題	<p><取組指標> ①生徒全員が、教員から少なくとも1日に一度はあいさつを含めて共感的姿勢による声かけを受けられるようにします。 ②あいさつの指導を継続的にを行います。 ③日常生活や行事等での「ありがとうメッセージ」等に取り組みます。 <結果指標>『自分からあいさつしている』という生徒の割合90%以上をめざします。 ⇒結果、91.6%（昨年度93.5%）</p> <p>学校活動のあらゆる場面を通して、自分も人も大切にしたい気持ちを持ち「豊かな感性」（だいすき・つながる）を育てるべく、人権教育と仲間づくりの取組を根幹として、「あいさつ」を象徴的に提示し取組を進めてきた。 具体的には取組指標に加え、日常的な教職員からの挨拶や声かけ、生徒会活動でのあいさつ運動、授業や部活動におけるあいさつ、分離礼の指導、道徳等の授業におけるあいさつの意義や自分や人を大切にする、人とつながることなどの指導等を行っている。また、学期に一度の教育相談等を活用し、生徒一人一人の声に耳を傾け、心の解放に向けて取り組んでいる。</p> <p><成果と課題> ・さまざまな取組により、あいさつをする雰囲気は依然と比べて醸成されてきており、全体としてはあいさつできる生徒は多くなってきているが、一部の生徒のみに活動が止まっている、自発的にあいさつをする生徒が少ない。 ・今後も生徒と教員が一体となって取り組み、自分からあいさつできたり、地域においても自然にあいさつができるよう、あいさつの質を向上させていく必要がある。 ・各学年の行事や学期ごとに周りの人への感謝の気持ちや仲間のよいところに向けて取り組むを通して、自分が大切にされている実感や仲間のよさを感じ、自分に活かそうとする姿も見られた。</p>	
重点目標 2	ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓に取り組む生徒を育てます	3
主な方策 成果と課題	<p><取組指標> ①清掃方法を工夫・改善し、はじめと終わりの点呼・あいさつ・指示・評価を行います。 ②掃除や整理・整頓の指導を継続的にを行い、「がんばってるねメッセージ」等に取り組みます。 ③さまざまな場面で、当たり前なことを当たり前できるように継続的に指導します。 <結果指標>『ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている』という生徒の割合85%以上をめざします。 ⇒結果、83.9%（昨年度85.6%）</p> <p>あらゆる教育活動を通して、自らの課題克服に向けて粘り強く取り組もうとする気持ちを持ち、当たり前なことが当たり前でできる力、「やり切る態度」（じっくり・やってみる）を育てるべく、「掃除」を象徴的に提示し取組を進めてきた。 具体的には取組指標に加え、清掃点検カードを使っての毎日の清掃時の指導と評価、掃除用具の工夫や分担、日常的な整理・整頓に向けた各学級での取組や個別の関わり、継続的に粘り強く活動するための全校集会や学年集会及び日々の教師や仲間からのていねいな言葉がけやサポート、個々の努力が周りの生徒に認められる場面の設定などに取り組んでいる。</p> <p><成果と課題> ・掃除の時間では、教師は指導にとどまらず生徒とともに清掃活動するなどの関わりもあり、時間の中で熱心に清掃する生徒が多いが、細かなところまではでききらない面もあり、継続した指導や意識づけが必要である。 ・自分の身の回りの整頓が苦手な生徒は年々増えてきており、帰り学活等でロッカーや机上整理に努めるよう意識づけしたり、片付けの日を設定したりすることにより、多くの生徒は、自分の持ち物の整理・整頓に取り組もうとしていたり、生徒同士で声をかけ合ったりするよう姿も見られるもの一人当たりの持ち物の多さや収納スペースの問題、個々の生徒の課題等もあり、課題生徒にあった個々への支援とともに、継続した指導や意識づけが必要である。</p>	

重点目標 3	時間や期限を守り、授業を大切にしている生徒を育てます	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><取組指標></p> <p>①授業の始まりと終わりを大切に、宿題や自主勉強ノートの指導（点検・評価）を継続的にしています。</p> <p>②時間や期限を守る指導を継続的にしています。</p> <p>③自分の生活を振り返り、自分自身を向上させる指導を行います。</p> <p><結果指標>『時間や期限を守り、授業を大切にしている』という生徒の割合90%以上をめざします。</p> <p>⇒結果、91.0%（昨年度93.5%）</p> <p>あらゆる教育活動を通して、時間や提出物等の期限を守り、学ぶ意欲をもって主体的に授業に参加しようとする、「生きぬく基礎」（すこやか・まなぶ）を育てるべく、「時間」を象徴的に提示し取組を進めてきた。</p> <p>具体的には取組指標に加え、生徒会や委員会活動でのベル席チェックの取組や委員やリーダー会、生徒同士の声かけ、教師自身が授業時間を守る行動や授業規律の確立、提出期限を守らせる意識的な指導及びサポート、わかる授業・生徒主体を目指した授業改善、指導と評価の一体化等の取組を進めている。</p> <p><成果と課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会委員会活動や学級での取組や教師が意識して授業時間を確保すること等を通して、多くの生徒が時間を守り授業を大切にしようとする雰囲気が出てきている。 ・ほとんどの生徒が提出物を出すことへの意識は持っているものの、期限を意識する弱さであったり、教師の指導により何とか期限までに提出する姿もあり、生徒自身の意識はまだ薄く、今後もその意義も含めた継続した指導、サポート、家庭との連携が必要である。 ・班活動やペア活動を行うと生徒同士が学び合っている姿が見られ、意欲的に学習に参加してはいるが、全体的には受身的である。生徒が主体的に授業に向かえるための魅力的な授業づくりや授業の工夫、授業改善を継続的に目指していく必要がある。 	

重点目標 4	生徒の保々地区への愛着の気持ちを育てます	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><取組指標></p> <p>①各学年、教科、委員会、有志等がボランティア活動や文化活動、校外活動等の地域に出向いて行う活動を継続します。</p> <p>②各種団体行事、地域奉仕活動、各種防災・避難訓練等への参加やあいさつ運動、交通安全活動を通して、「中学生も地域から頼りにされている」と実感させます。</p> <p><結果指標>『保々地区が好き』という生徒の割合90%以上をめざします。</p> <p>⇒結果、94.2%（昨年度90.8%）</p> <p>教育活動の中で、生徒が自主的に地域の活動に参加したり、学校教育活動に地域の方に参加してもらったりなど、地域の人たちと関わりを持つことを通して、「地域への愛着」を育てるべく、取組を進めてきた。</p> <p><成果と課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳で地域の方への感謝を題材とする教材を扱ったり、授業の中で保々地区の自然や福祉、いろんな職業についてふれたりするなど、保々地区に関連した教材を取り上げる等により、生徒からも保々地区を大切にしている姿がうかがわれる。 ・コミュニティ・スクールを中心に、特別支援学級の農園活動における地域の方の授業支援や図書ボランティア、地域の方による除草作業・除草剤散布などの環境整備への協力などしていただくことにより、学校で地域の方と触れ合う機会をもつことができた。 ・地域の活動であるプラザ学習に積極的に参加する生徒が増え、今年度再開した人権プラザ文化祭で人権劇を上演することができた。また、人権劇は学校文化祭でも上演し、劇後に各クラスで内容を深めるための人権学習を実施することができた。さらに、プラザ学習では、人権まちづくりの会の方や青年会と交流する機会ももてた。人権まちづくり推進委員会主催の人権まちづくり講座では中学校の取組を生徒が主体的に発表できた。今年度は各地区での防災訓練も再開され、少数ではあるが中学生が参加できた。 	

2 改善方針

○今後も生徒や職員に定着してきている、重点目標「あいさつ」「掃除」「時間」「地域への愛着」を継続して取り組んでいく。

○重点1にかかわって

あいさつの取組にとどまらず、あいさつの意義を考える機会や人権学習や道徳等での差別解消に向けた取組を通して、自分も人も大切にしようとする「豊かな感性」を育てるべく、今後も教師側が意識して指導にあたっていく。

○重点2にかかわって

清掃活動や整理整頓にとどまらず、日々のあらゆる場面での指導や取組、生徒への言葉がけを通して、自らの課題克服に向けて粘り強く取り組む姿勢や当たり前にするべきことを当たり前に行える力をつけていくべく、継続して指導にあたっていく。

○重点3にかかわって

時間や提出期限を守ることにとどまらず、生徒が主体的な生き方・学び方が身につくために、日々の指導に加え、魅力的な授業づくりや授業の工夫、授業改善を継続的にやっていく。

○重点4にかかわって

・まだまだ保々地区の良さを実感できていない生徒もあり、道徳科や総合学習、特活などあらゆる場面で地域の良さやありがたさを実感し、小学校から培ってきた地域への思いを大切にさせられるような取組を行っていく。

・地域での職場体験学習や地域の方による職業講話なども含め、学校教育活動に地域の方が参画していただける取組を今後も大切にしていく。

・地域の活動に生徒が積極的に参加できるよう働きかけていく。

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 常磐中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着と指導の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>学校アンケートの質問「基本的な内容をわかりやすく教えてくれる」において約95%の生徒が肯定的な回答をしている。全国・学力学習状況調査においては、数学・理科で全国の平均正答率を上回り、国語も若干上回っている。また、同生徒質問紙ではいずれの教科においても「授業の内容はよくわかる」などのほとんどの項目で肯定的な回答率が全国平均を上回り、特に「数学が好き」などの項目では全国平均を大きく上回っている。</p> <p>授業では、学習の「めあて」や「見通し」を明確にし、学習後に生徒が身に付いたことを振り返るなど、生徒が達成感を感じられる工夫している。また、生徒が1人1台端末を効果的に活用することや、感染症対策をしながら小集団学習をより有効な場面で行うことなど、授業展開を工夫してわかりやすい授業を目指している。そして、教科、時間数が限られているものの、少人数授業やTT（チーム・ティーチング）、支援を配置した授業により質問しやすい環境をつくっている。これらにより、生徒が「わかった」と実感でき、学習意欲や学力の向上につながっていると考えられる。</p> <p>帰りの会前10分間の補充学習（1人1台端末を活用したドリルパックなど）や自主学习ノート「Toki Note」による家庭学習の取組を行い、一定の成果もあるが、あまり効果を感じていなかったり家庭学習の定着につながっていなかったりする生徒も一部いるため、取組の内容や方法を検討する余地がある。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>学校アンケートの「豊かな人間性の育成」に関する各項目において、生徒・保護者とも約9割が肯定的な回答をしている。全国・学力学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいけない」には、全国平均をやや上回る約97%の生徒が肯定的な回答をしている。</p> <p>道徳の授業や人権学習でも、ICTを活用して生徒の意見を多く交流し、他者から学び考えが深まるようにしている。講師招聘による「いじめ防止」をテーマにした人権講演会、1年生が校区の小学6年生とともに学習する人権フォーラム、福祉体験学習ではSSピンポンの体験などの学習を行っている。</p> <p>総合的な学習の時間には、3年間を通して進路・キャリア学習に取り組み、1年生では様々な職業の方から話を聴く職業ガイダンス「ザ・プロフェッショナル」、2年生では「職場体験学習」を中心に、3年生での進路選択につながるよう系統的に取り組んでいる。朝の読書では、チャイムとともに静かな雰囲気の中で読書（3年生は朝学習）をしており、豊かな心の育成とともに、1日の学校生活にもよい影響を与えていると考える。</p>	
重点目標 3	生徒指導・生徒理解の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>学校アンケートの「生徒指導・生徒理解の充実」に関する各項目において、生徒・保護者とも約9割が肯定的な回答をしている。特に、『「あいさつをする」「時間を守る」「身なりを整える」ができています』に対して97%の生徒が肯定的な回答をしている。</p> <p>週1回、生活委員会の教員と生徒を中心に社協とも連携して「あいさつ運動」を行っているが、自分からあいさつできない生徒や声の小さい生徒もいることが課題である。休み時間には「ふれあいタイム」と称して教員が生徒の様子を見て積極的に関わり、生徒の理解を深め、よりよい関係づくりの機会としている。授業開始3分前には授業の準備をして着席できるよう、生活委員や室長を中心に生徒同士が声をかけあっている。</p> <p>各学期に行う「いじめ調査」だけでなく、連絡ノートや教育相談、生徒の様子の変化などから、積極的にいじめ等の問題を認知し、教職員間で情報共有、連携して早期の解決に取り組んでいる。また、近年、集団生活に不安を抱える生徒や個別に対応が必要な生徒も増えており、SC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）などとも連携して対応を進めている。</p>	

重点目標 4	教職員の指導力の向上と組織の活性化	4
主な方策	「学力を定着・向上させるための授業づくり」の研修テーマを継続し、特に1人1台端末をはじめとしたICTを活用した授業づくりが進んだ。校内全体公開授業として社会・理科・保健体育、2年生全学級の道徳を行い、それ以外の教員は個人公開授業として、「問題解決能力向上のための5つのプロセス」(四日市モデル)をベースにICTを活用した授業を全員が行い、互いに参観して研修を深めた。公開授業以外でも授業でのICTの活用方法について学び、各教員の授業づくりに役立てている。	
成果と課題	研修委員会、生徒指導委員会、人権教育委員会、不登校対策委員会、特別支援委員会、学年主任による代表者会には管理職が入り、それぞれ時間割上に位置付けて週に1回会議を行い、現状や進捗状況を確認し、学校全体で共通理解を図りながら取組を進めることができるようにしている。	

重点目標 5	保護者・地域・関係機関との協働による学校づくり	3
主な方策	学校アンケートの「保護者・地域・関係機関との協働による学校づくり」に関する各項目のうち「授業参観・学校公開や行事などに保護者や地域の方の参加が多い」のみ生徒の肯定的な回答が約7割であるが、これ以外は生徒・保護者とも約9割が肯定的な回答をしている。	
成果と課題	1年生「サ・プ・ロフェッショナル」ではPTAによる講師の選定など、2年生「職場体験学習」では学校運営協議会(コミュニティ・スクール)委員から体験先の助言や地域の事業所による受け入れなどに協力していただいた。他に、常磐地区人同協による「人権啓発標語」の取組など、保護者や地域、関係機関との連携・協働による取組を行っている。 学校公開は予定通り3回行うことができた。体育祭は3年生の保護者のみ限定で直接参観していただくことができた。文化祭は今年度も感染症対策の観点から配信による公開となった。生徒が「保護者や地域の方の参加が多い」とは感じられないことはやむを得ないと考えられる。今後の状況にもよるが、来年度は参観の機会が増やせるものと考えている。 定期的な「学校だより」や「学年通信」などの発行、学校ホームページの更新を行っているが、より情報共有・共通理解を図れるようにしていきたい。また、学校アンケート等を通していただいた保護者からの意見をよりよい学校づくりに生かしていきたい。	

2 改善方針

授業では、さらに多くの生徒が学力の定着を実感でき、主体的に学習に取り組めるような授業づくりを目指し、より効果的なICTや小集団の活用場面や振り返りの方法などができるよう授業改善していく。基礎学力の向上のための10分間の補充学習は、生徒の状況にあった内容や個別に取り組むことができる内容に改善を検討する。また、家庭学習を補充学習と関連付け、家庭学習でやるべきことを明確にしてより定着を図れるようにしたい。

豊かな人間性の育成に向けて、道徳の授業や人権学習、進路・キャリア学習などを生徒がより主体的に取り組めるようにするとともに、それらの学習で学んだ内容を授業や学校生活で活かす意識を高めていきたい。あいさつについても道徳や他の学習との関連により意識を醸成し、生徒が主体的によりよい学校にしていけるような取組を進めたい。また、教員による「ふれあいタイム」を継続し、より多くの教員が生徒と関わり理解を深めるとともに、SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)などとも連携してより生徒一人一人に応じた対応をしていきたい。

地域の子どもを地域全体で育てていけるよう、学校の考えや取組、生徒の様子などをわかりやすく発信することと、実際に学校や生徒の様子を参観していただける機会を設けて、より情報共有・共通理解を図っていきたい。

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 西笹川中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	キャリア教育の充実と進路保障	3
主な方策 成果と課題	<p>各学年の活動を通してキャリア教育の充実を図った。学期に一名以上の外部講師を招聘したり、外国に在住の方にオンラインで講演会をしていただくなど、自らの生き方を見つめる機会を多く設けた。コロナ禍でありながら、感染のリスクを低減させ、本年度は2年生の職場体験学習を実施できた。「時間の意識」や「挨拶」等実生活に必要な学習をすることができた。また、3学期には名古屋への社会見学も実施し、「防災」「国際」「福祉」に関する施設を訪問し、聴き取り学習を行うことで、主体的な生徒の育成のスムーズステップとなった。3年生の修学旅行では、県外へ行くことで集団活動の大切さや班別分散学習での協力について学ぶことができた。しかしながら、「キャリア教育」の意味が保護者や生徒に深く理解されていないために、学校評価アンケートでは他の評価項目より肯定的回答の割合が低い。本校の特色である「キャリア教育講演会」や「国際理解講演会」を数多く開催している機会を活かして、それぞれが「自分の生き方」を見つめることが、イコール「キャリア教育」であることをさらに意識させていきたい。</p>	
重点目標 2	毎日登校し、授業を真剣に受けようとする態度の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>本年度も学校運営協議会委員の方をはじめ、四日市市教育委員会の指導主事や外部講師等多くの方に授業の様子を参観していただいた。本校の研修の柱であるJSLカリキュラムを意識した指導が、子どもたちの学習に向かう姿勢に効果をあらわしていると、すべての方から好評価をいただいた。また、すべての教員がほぼ毎時間にICT機器を活用し、GIGAスクールを意識した授業を行うことで、外国にルーツのある生徒の理解の一助にもなった。1時間1時間の授業を大切に、真剣に学習に取り組んでいる姿を外部の方から評価していただいたことは、学校として大変ありがたいことと考える。一方で本校の課題でもある不登校生徒については、昨年度より減少傾向にある。担任だけでなく、学年がチームとなって「家庭訪問」や「電話連絡」を欠かさず行っていることが功を奏している。しかし、不登校生徒の存在は見逃すことができない。次年度は、教育相談週間やSCによる相談をさらに充実させ、一人でも不登校生徒の削減につながるよう努力していきたい。</p>	
重点目標 3	自ら進んで挨拶をし、環境美化に努め、時間を大切に作る生徒の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>校内外ともに生徒は良く挨拶をし、地域の方からもお褒めの言葉をいただくことが多かった。しかしながら、コロナ禍の中声を出さない習慣が身についてしまい、校内や廊下等でのあいさつの声が控えめになった生徒が多い。そこで、学校集会や学年集会、授業の前の挨拶等事あるごとに「気持ちの良い挨拶をしよう」という呼びかけを、生徒会とタイアップしながら主体的な生徒の育成を目指している。</p> <p>環境美化については、校内での清掃時間には一生懸命に清掃に取り組むことができる生徒が多く、生徒アンケートにおいても、88.1%の生徒が「ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている」と答えている。</p> <p>時間に対する意識は、81.4%の生徒が「きちんと時間や期限を守っている」と答えているが、朝の遅刻が多いなど十分に時間の意識ができていない生徒も一定数存在する。学校全体として時間を守ることの大切さを教えていきたい。</p>	

重点目標 4	よりよく生きるための学力保障	3
主な方策 成果と課題	<p>昨年度より、学習環境のICT化が一気に進み、タブレットを活用しての学習が日常化した。多くの授業でタブレットを使用して情報収集やドリル学習をするなど学習の進め方自体に大きな変化をもたらしている。また、毎日タブレットを家へ持ち帰る習慣を身につけさせ、宿題や自主的な学習を進めるツールとなってきた。このような中、生徒は授業中もICT機器を自由に使いこなし、学習の個別最適化について徐々に進んでいる。このことは学校評価アンケートの、「確かな学力」の評価項目で生徒91.2%、保護者84.9%)や「個に応じた指導」の評価項目で生徒96.2%、保護者82.9%という高い評価結果に表れている。一方で、「友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意だと思う」の評価項目では、生徒の肯定的回答が55.1%と低い値となっており、ペアやグループでの活動などを通じて、自分の考えや意見を表現する力をつけていく必要があると考えられる。</p> <p>また、ICT機器のより効果的な活用について研修を進めるとともに、自分の考えを積極的にアウトプットする力を育てるよう授業改善を進めたい。</p>	

2 改善方針

次年度に向けて次の4点を改善していきたい。

1 多文化共生教育のさらなる充実

- ・多様な講演会やパネルディスカッションなどを通して、自身の中に多文化共生の考え方を根付かせるとともに、将来の多文化共生社会の実現に向けて自ら行動する力を養う。

2 登校サポート体制の充実

- ・登校しづらい生徒に対する支援体制を充実し、外部の専門機関とも連携をとりながら、保護者との連携を密にして少しでも登校できるよう取り組みを進める。

3 キャリア教育の充実

- ・実体験を基盤にしたキャリア学習に取り組み、自分の将来の夢や志について具体的にイメージをもち、発表できるよう学習を進める。

4 学力向上の取組

- ・ICT機器の有効活用を進め、学習の個別最適化を図る。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 三重平中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	自立のためのキャリア教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○「人を大切にする視点」で教育活動を見つめ、それぞれの活動に心を入れるよう取り組んだ成果として、保護者の80%以上、生徒の90%以上が「『笑顔とあいさつあふれる学校』にふさわしい活動を行っている」と答えてくれている。今後も「人を大切にする」視点での教育活動にさらに磨きをかけていきたい。</p> <p>○教科指導において、ICTを活用した学びの工夫と、主体的な学びにつながる指導については、特に深く考えて取り組むことができた。また、日常的にも生徒の気づきにつながるよう指導や声掛けに取り組んだ。</p> <p>○ICT機器を活用した授業づくりについては定着してきたように思う。また、ICT機器を活用する場面を自主的に考える生徒も出てきている。</p> <p>○「働きやすい環境」を意識し、互いに意見の交流を深め共通理解に取り組んだ。</p> <p>○教員数が少ないこともあり、仕事量が多く、働きやすいとは言い難い環境にある。年間行事・日課等の思い切った抜本的な見直しが必要であろう。</p> <p>○仕事内容の重要度の高いものから優先的に取り組める組織づくりをしていきたい。</p> <p>○生徒一人ひとりに合った学習の機会を設定することは難しい状況にあるが、仕事内容の学校全体での精選等を行い、時間を生み出したい。</p> <p>○学年によって「情報共有」がしっかりできており、働きやすい環境が来ている学年と、そうでない学年があり、今後の課題の一つである。</p> <p>○授業の中で「間違っても大丈夫」と言う声掛けや雰囲気づくりを行うことで、自身を持つことから自尊感情を高めていく取組をすすめてきた。</p> <p>○進路学習においては、将来の見通しをつけさせることができた。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>生徒の自尊感情はまだまだ低いが、80%以上の保護者が「子どもは自分が好きで大切」ととらえており、さらに90%以上の保護者が「自信を持たせる声掛けをしている」と答えてくれている。さらには90%以上の保護者と生徒が「学校は一人ひとりを大切にしている」ととらえてくれていることから、今後も「平っ子タイム」で育んだスキルを活用して、仲間づくりをさらに進めていきたい。</p> <p>○教科指導において、生徒一人一人に「できた」と感じる事ができ、達成感につながるような取組や発問・声掛けを意識した。</p> <p>○振り返りシートなどを活用し、生徒の理解や取り組み方の把握に努めた。</p> <p>○教師主導の一方的な授業にならないよう、ペア・グループワークを多く取り入れ、教師がファシリテーターになることを理想の形としてやっていきたい。</p> <p>○今年度はこれまでになく「平っ子タイム」(SST)の取組に力を入れ、日常の様々な場面においてその成果を発揮することを生徒にも意識させるよう取り組んだ中で、少しずつではあるが、生徒にコミュニケーション力がついていっている様子がうかがえた。しかし、生徒同士のコミュニケーションの取り方については、まだまだ「平っ子タイム」にとどまっており、他の多くの場面で活かせていない状況にあるのが残念。</p> <p>○班の中で、お互いの話をし、聞き合うことで、自尊感情の育成に努めた。</p>	

重点目標 3	地域と共にある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>○地域防災教室の企画、里山保全活動への参加、子ども教室への参加などのいくつかの「地域と連携した事業」に参加することができた。</p> <p>○緑化活動は、地域の人々と関わり合う大切な活動なので、これからも続けていきたい。</p> <p>○「学びの一体化」の分科会において、他校の実情や取り組み内容等を学び、指導に活かすことができた。</p> <p>○学びの一体化などで交流することで地域の保幼小の教職員とは情報交流・共有はできているが、会議の目的が絞りきれず、中途半端に終わってしまうこともあり、今後の課題の一つである。</p> <p>○HPの更新は、各学年とも週に1回以上の更新を目指し、積極的に情報発信をするようにしたい。また、委員会や部活動など、多方面での情報もアップしていきたい。</p> <p>○生徒一人ひとりの些細な変化をキャッチすべく、生徒の様子をよく見て回り、教師自ら挨拶を元気よく行い、生徒とのコミュニケーションをとる。</p> <p>○地域行事への参加が、部活動・委員会単位であったが、できれば、もっと広く呼びかけ、生徒の参加人数を増やしていきたい。</p> <p>○防災・安全面において、地域の方々・保護者と協力して、避難訓練・避難所経営訓練・生徒の引き渡しの練習等を行うことができればよい。</p>	

2 改善方針

<p>○不登校傾向をはじめ、コミュニケーション能力の低い生徒が多い状況が続いている。今後も「人を大切にする視点」を大切に、「平っ子タイム」(SST)などの教育活動に力を入れ、「自尊感情の育成」や「仲間づくり」を進めていかなければならない。</p> <p>○教員が少ない状況で、一人ひとりの仕事が増え、学年内や職場全体で落ち着いて情報交換をしたり情報共有を図る時間がとりづらくなっている。行事の精選や会議の持ち方の工夫等を進めながら、職員室でのホワイトボードによる掲示を行ったり、放課後に短時間でも集まれる時間を設けたりする工夫が必要である。</p> <p>○地域での様々な活動が復活しつつある中で、地域と連動した活動・事業への参加体制の見直しや方法の確立が急がれる。「勤務時間の縮減」と言われる中、様々な新しい仕事が入ってきて、休日の地域行事への参加が難しくなっている。それぞれの行事について、計画・立案の段階で参画し運営の仕方等も協議できるようにしていくことで、さらに地域との連携が図られ、地域行事への参加などの活動も充実させていけると考える。</p>

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 羽津中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○キャリア教育の視点を大切に学習の推進 本校では、社会的・職業的に自立するために必要な4つの力を生徒に具体的に示し、その育成に取り組んでいる。教科指導はもちろん、部活動や生徒会活動などすべての教育活動の中でキャリア教育の視点で取り組むこととしている。本年度は、職場体験を実施できなかったため、職場体験の代替活動として外部講師による複数回の講演会や、10業種以上の方から、生徒が興味のある業種を選び、少人数でお話を伺う等の機会をもった。その結果、生徒の評価は上がっているが、保護者の評価は厳しいものとなった。代替活動等の意義等を保護者に伝えきれなかったことが要因の一つだと考える。来年度は、職場体験を実施すると共に、保護者や地域への発信をより充実させていきたい。</p> <p>○ICT・クラウドを取り入れた授業づくり 様々な場面でICT機器（タブレットなど）やクラウド（Googleクラスルームなど）、オンライン教材（iプリ、ドリルパークなど）を、授業に積極的に取り入れる授業づくりを行った。ICT活用に対して苦手意識のある職員もいるが、OJTによって、全職員が取り組みやすい環境づくりを心掛けた。今後も、より効果的な活用方法を模索していく。</p> <p>○「主体的に学ぶ姿勢への支援」としての家庭学習の推進 本校では、独自の生活ノート「DAILY STUDY」を活用した家庭学習に継続して取り組んでいる。生徒が自分で課題を考え、自分の力を伸ばしていけるような取り組みを行っている。しかし、有効活用できている生徒とそうではない生徒の差がみられはじめ、一人一人の生徒が効果的な家庭学習に取り組めるよう教師の声掛けや保護者への発信、指導方法等の研修を深めていく必要がある。</p>	
重点目標 2	心を豊かにする羽津らしい活動の充実	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○生徒主体の学校行事の推進 生徒は制限のある中で出来ることを精一杯行い、特に生徒会ダンスや合唱コンクールでは、羽津中生として誇りをもって取り組めた。その結果、文化祭や生徒会活動に関する生徒の評価は維持されたが、保護者の評価は厳しいものとなった。これは、各行事への保護者の観覧に制限があり、体育祭や文化祭ではPTAの協力のもとライブ配信等を行ったが、保護者に実際に子ども達の取り組む姿に接してもらう機会がなかったことが大きいと考える。生徒のモチベーションを保つには、学校のみならず地域や家庭の支えが必要不可欠であり、今後教育活動を進めるうえで、保護者への情報発信の工夫を行い、理解を得られる学校づくりを心掛けていきたい。</p> <p>○文化・芸術活動の充実 保幼小が一体となって取り組み、地域の伝統として定着しつつある「山のコンサート」を3年ぶりに開催した。これにより、「山のコンサート」の取り組みが始まった以降の卒業生は、1度は垂坂公園で歌う経験をすることができた。「山のコンサート」に中学生として参加し、運営に携わった経験のある生徒が途切れず、地域の行事をつなぐことができた。内容の精査を図りながらも、継続できるよう取り組んでいきたい。</p> <p>○道徳・人権学習の充実 ネットモラルやメディアリテラシーなど、生徒にとって身近で喫緊の課題について取り組んだことで、より実情に応じた学習となった。また、道徳の授業においてもICTを積極的に活用することで、「考え・議論する道徳」の授業づくりに取り組めた。</p>	

重点目標3	相互信頼に基づいた生徒指導	3
主な方策 成果と課題	<p>○不登校対策の推進 市教育委員会「不登校対策推進事業実施要項」に基づいた不登校対応教員を校務分掌上に位置づけ、校内適応指導教室（つばさ教室）を設置し2年目となった。つばさ教室の存在が、生徒や保護者に安心感をあたえ、生徒が落ち着いて過ごすことができている。この結果、昨年度に比べ、不登校生徒数が減少した。今後は、つばさ教室での支援の質を高めるとともに、つばさ教室に通級することができない不登校生徒への支援の手立てを増やしていくことが必要である。</p> <p>○生徒指導の充実 生徒指導委員会を中心に、学校全体で情報共有を図ると共に、具体的な支援や指導の手立てを検討し対応することができた。教育相談やQU調査、いじめ調査などを活用し、教職員が生徒の変化に早く気づき、本人の困り感に寄り添った初期対応を心掛けた。また、学校だけでは対応できないケースは、専門機関やSC、SSWなどと連携し、「チーム羽津」として取り組んだ。生徒や保護者の信頼関係を構築するには、家庭訪問等時間が必要であり、働き方改革とのバランス調整が必要である。</p>	

2 改善方針

<p>【重点目標1】確かな学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育（社会的・職業的自立のための4つの力）の視点で、生徒が自らの成長を感じ取ることができるよう取り組みを推進する。 ・新しい社会を生きる力の育成を目指し、ICT・クラウドを積極的に取り入れた授業づくりを行う。 ・本校独自の生活ノート「DAILY STUDY」を活用し、“主体的に学ぶ姿勢への支援”を行う。 <p>【重点目標2】心を豊かにする羽津らしい活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽津地区の保幼小中が連携して一堂に集う「山のコンサート」や「合唱コンクール」「生徒会ダンス」は、生徒主体の実行委員会を組織し、羽津中の伝統として受け継がれている。この伝統を切らすことなく精査しながら、さらなる発展を図っていく。 ・学校だよりや学年通信、ホームページを活用して保護者や地域への日常的な発信を行うと共に、より学校の取り組みが伝わりやすいよう発信方法を工夫していく。 <p>【重点目標3】相互信頼に基づいた生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の変化に早く気づき、問題行動や生徒の情報を迅速に共有し、きめ細やかな生徒指導を継続する。特に教育相談の充実を図り、生徒との信頼関係を深める取り組みを推進する。 ・校内適応指導教室での支援の質を高めるとともに、通級することができない不登校生徒への支援の手立てを増やしていく。 ・保幼小との連携を深め、児童生徒の情報交換をより一層密にし、個々の生徒を理解した生徒指導や教育相談を実施する。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 西朝明中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	生きて働く学力の養成	3
主な方策 成果と課題	<p>ICTの活用で授業づくりを行った。また、数学科の習熟度別授業、英語科の少人数授業を実施し、生徒一人ひとりに応じた学習の充実を目指した。生徒アンケートの「学校の授業はわかりやすい」に対する肯定的回答は91.4%、「学校の授業では、めあてや学習の見通しが示され、学習の振り返りも行われ、何をどう学習すればよいか、何ができればよいか分かりやすい。」に対する肯定的回答は91.8%という結果であるが、昨年度比でそれぞれ1.8ポイント、1.4ポイント下がった。また、「一人一台タブレットPCなどICT機器を使用した学習は分かりやすい」に対する肯定的回答91.8%、「一人一台タブレットPCなどICT機器を活用した学習では、自分の考えをまとめたり意見交流するときなどにICT機器は役立っている」に対する肯定的回答が94.4%と、昨年度を上回った結果となっている。</p> <p>「あいさつ、時間を守る、身なりを整えるなどのルールを守ろうとしている」は98.1%と規範意識が高いことがわかる。</p> <p>「朝の読書を通して読書に関心を持つようになった」は前年度比11ポイント上昇した。</p> <p>今後は家庭学習の習慣化に重点を置き、生徒の意識を高める指導の工夫・改善が課題である。</p>	
重点目標2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>コロナ禍の中、学校行事等において縮小傾向になり、生徒主体の取り組みも進めてきたが、「体育祭・文化祭などの学校行事は自分たちが主体となって取り組み充実した内容にすることができた」に対する肯定的回答は94.8%で、昨年度からでは若干下がっているが、「あてはまる（そう思う）」が73%と高い回答となっている。</p> <p>生徒指導、特別支援教育において、会議の内容や日々の状況を全職員で共有することで、教員の意識は高まった。</p> <p>保護者アンケート「命や人権を大切にする意識が子どもの中に育ってきている」に肯定的回答は91.4%で昨年度比で3.8ポイント上がっている。</p> <p>保護者アンケート「学校は、子どもたちの悩みや困り感を受け止め、きちんと相談にのり、対応してくれる。」、「学校は、いじめや暴力などさまざまな問題を見逃さずに指導しており、安心して子どもを通わすことができる。」に対する肯定的回答がそれぞれ85.7%、90.9%と昨年度比でそれぞれ5ポイント、9ポイント上がっている。これまで通り、教育相談の充実、人間関係のトラブル、SNSのトラブル等への取り組みを進めていきたい。</p>	
重点目標3	地域とともにある学校の実現	3
主な方策 成果と課題	<p>昨年に引き続き地域の活動が中止や縮小になったが、できる範囲で取り組むことができた。</p> <p>コロナウイルス感染症への対応をしつつ、国内情勢等に鑑み、今後継続して活動していくために、「防災@にしあさけ」を行うことができた。</p> <p>地域とともにある学校を進めるにあたり、多くの行事等が縮小されたこともあり、やや停滞した部分もあったが、今後も続けられるように、工夫が必要である。</p> <p>学校運営協議会での協議から、今後の部活動の在り方について議論することができた。また、コロナ禍においても、十分ではないが、生徒が地域貢献・社会参画につながる機会を得ることができた。</p> <p>PTA活動においても、コロナ禍でできない活動の代替を工夫して行うことができた。また、昨年無観客で行った体育祭・文化祭等の学校行事において、人数の制限等を工夫し、一部であるが参観等行うことができた。</p>	

2 改善方針

今後、新型コロナウイルス感染症への国策が変化していく中、コロナ禍によって縮小された教育活動を見直ししていくことになる。生徒主体の学校づくりを推進し、生徒が達成感を得られる活動を再構築していくことに注力していきたい。必ずしも以前の教育活動へ回帰するのではなく、感染症禍でも行える教育活動を新たに示していきたい。

ICTの活用によって、今までにできなかった授業が行えるようになったことから、更に研修を重ね、一人一人の生徒に応じた学習の設定を進め、学力の向上につなげられる実践を進めていきたい。また、引き続きICT機器を効果的に活用したユニバーサルデザインの授業づくり、「視覚化」「焦点化」「共有化」を図り、誰もが分かりやすい授業づくりを進めていきたい。

本校の大きな課題として、特別な支援が必要な生徒への教育活動の保障、不登校の未然防止、学力保障があげられる。これまで進めてきた学校としての体制を継承しつつ、より一層充実を図り、生徒に応じた合理的配慮を行い、学力・進路保障を進めたい。

学校運営協議会を中核として、防災@にしあさけや生徒会・有志による地域行事の参加などにおいては、参加することに限らず、理念についても熟考できる取り組みにするために、地域とともに生徒が地域社会に参画できるよう活動を進めたい。また、学校・家庭・地域が協働できる学校づくりを進めたい。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 桜中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ I C T機器を有効的に活用して「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善に努め、四日市モデル等を使って生徒の問題解決的な能力の育成を目指し授業づくりを行ってきた。研修委員会を中心にこれらの研修を進めてきた結果、生徒アンケート「先生たちは、生徒が考えたり発表したりする学習を大切にしてくれる。」に対する肯定的回答は97%（昨年度94%）の結果を得ることができた。また、I C Tの活用に関する教職員自己評価（4段階評価）は3.6（昨年度3.4）と向上し、手応えを感じる取り組みとなった。 ・ 生徒アンケート「先生たちは、計画的に宿題を出し、家庭学習のアドバイスをしてくれる。」に対する肯定的回答は89%であった。家庭学習の習慣化に向け、生徒の意識を高める指導の工夫・改善およびI C T機器等を活用した授業とつながる家庭学習で途切れのない学びと基礎学力の定着が課題である。 	
重点目標 2	豊かな心と健やかな体の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育の推進では、生徒のアンケート「先生たちは、進路（高校・職業など）に関する学習や相談に取り組んでくれる。」は肯定的回答が92%（昨年度90%）となった。しかし、保護者の結果は85%に留まっており、学校の対応等がなかなか保護者に伝わっていないことから家庭にお知らせする方法などを工夫する必要がある。 ・ 生徒アンケート「先生たちは、いじめや差別を許さず、思いやりや人権を大切にしたい仲間づくりに取り組んでくれる。」は肯定的回答が96%（昨年度94%）となった。しかし、否定的な回答をしている生徒が4%いることも踏まえ、学校が、学級が生徒たちにとって安心して過ごせる場となるよう引き続き道徳・人権教育を大切にされた教育の充実を努める。現在、学校では暴力的な事案はほとんどないものの、SNSを介した嫌がらせや人間関係のトラブルは少なくないことから、個人が特定されないよう配慮しながらも、SNSのトラブル防止への取組を今後も進める。 ・ 健康指導と食育指導は、学びの一体化で小学校栄養教諭と、そして学校薬剤師などとタイアップして2学期に行ったが、同時期にオンラインで様々な講演会が重なり、ねらいがぼやけてしまったことで生徒に直接伝わりにくかったことが生徒の評価（肯定的回答が81%）に表れたと考えられる。今後は年間計画に位置付け計画的に実施し、ねらいを明確に生徒に伝えるとともに、家庭にもしっかりと伝わる取組の実践が必要である。 	
重点目標 3	信頼される学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒アンケート「先生たちは、困ってくれる生徒に対し、相談に乗ったりアドバイスをしたりして、生徒を支えてくれる。」は肯定的回答が昨年度と同様94%と高く、Q-U調査の分析やいじめアンケートを活用し生徒との教育相談や、いじめ・人間関係のトラブル、SNSのトラブル等への予防や解決に向けた取組を丁寧に行ってきた結果である。 ・ 特別支援委員会を中心に、通級教室も活用しながら、S CやS S Wとともにチーム学校で、引き続き特別な支援の必要な生徒への合理的配慮を行う。 ・ 学校における働き方改革ときめ細かな生徒理解を両立するためには、今後も学校教育活動全体を見直し行事の精選を継続していく必要がある。また、Postコロナ下での活動は、内容を吟味しながら、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を明確にし分担して進める必要がある。 	

重点目標 4	家庭と地域等との連携	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会（CS）での協議から、桜中学校区内の3校で通学路における「横断歩道のハンドサイン」の取組が始まった。横断歩道での意思表示により安全に登下校できるようになったこと、あいさつができる児童・生徒が増えてきたことは地域からの評価も高い。3校合同のCSで情報共有ができること、そして学校と駐在所や地域との協働連携の成果である。 ・ CSで学校の困り感を共有し、委員の協力を得て地域ボランティア「やっこ屋」が発足し、PTAとともに連携した学校環境整備ができたことは今年度大きな成果であった。 ・ 学校情報の積極的な発信については、生徒、保護者、教職員ともに評価が高く、今後も学校HPや学校・学年通信などで取組等を発信し地域に開かれた学校を推進したい。 ・ Postコロナで学校と地域等と連携した活動がコロナ以前に戻れば、その調整や取組などを勤務時間内でやりくりすることは難しく、結果として教員の負担増となることが懸念される。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・ 「誰もが安心して、協働的な学びができる学校」を掲げ、次年度は「授業づくり」「学級経営」「仲間づくり」を軸とし、キャリア教育、道徳・人権教育、授業改善を充実させる。 ・ 次年度はICT機器を効果的に活用して、ユニバーサルデザインの授業づくりの三つの柱である「視覚化」「焦点化」「共有化」を図り、誰もがわかりやすい授業づくりに取り組む。 ・ 特別な支援を要する生徒への配慮、不登校の予防及び学力保障は本校の取り組むべき大きな課題である。ICT機器の活用及び来年度開設される「校内ふれあい教室」での指導・支援等、これまで進めてきた学校としての体制を継承し、その充実を図ることで、その生徒に応じた合理的配慮を行い、学力・進路保障に努めたい。 ・ Postコロナを見据え、体育祭・文化祭をはじめとする学校・学年行事のねらいを見直し内容の精選を行ってきたことで、今年度は生徒会等を中心にした生徒の活動が表に出るようになった。次年度も安易に「前年度踏襲」に陥らないよう学校運営及び教育活動全般について、ねらいを確認しながら、精選すべきことと充実すべきことを明確にし、枠組みの転換も図りながら改善を進めていく。 ・ 次年度の体育祭・文化祭等の保護者参観については、受付等の運営などPTA本部役員や各部会の協力を得ながら、コロナ禍で制限していた条件をなくし地域に学校行事を開いていきたい。 ・ 学校運営協議会を中核として、生徒会や有志での地域行事の参加を継続させるとともに、地域人材の活用を一層進めることで生徒の地域理解と地域貢献を図り、地域社会への参画意識を高めた。また、次年度も学校行事等におけるPTAの支援も受けながら、学校・家庭・地域が連携協働した学校づくりを進めたい。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 内部中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	生徒が主体的に取り組む授業を目指した授業改善を進めます	3
主な方策 成果と課題	<p>○「教科の本質にせまる楽しい授業の実践を進めます。」</p> <p>①言語活動（読む・話す・伝える）の充実 ②タブレットやプロジェクタ等ICTを活用した授業の実施 ③問題解決能力・論理的思考力の育成 ④少人数授業の効果的な活用と授業に遅れがちな生徒の支援 ⑤全国学力学習状況調査やみえスタディの分析と活用 ⑥主体的な学習の時間「マイスタ」の設定</p> <p>成果と課題 ・タブレットの利活用促進を目的に、授業で活用できる機器使用の講習やグーグルフォームの研修等を進めました。 ・基礎基本の定着の場として、学力補充の機会「マイスタ」を設定し、生徒たちが主体的に学習に取り組む習慣の定着を図りました。 ・生徒が主体的に学び合う授業をめざし、生徒たちの意見や考えをつなぐことを中心に授業を工夫し問題解決能力の向上に向けて、授業改善をさらに進めていきます。</p> <p>★学校自己評価において 「学校は、生徒に授業をていねいに分かりやすく教えている。」 → 肯定的な回答 生徒95% 保護者90% ※学校自己評価の項目については新学習指導要領等との整合をとれるよう改定を図ります。 〔例〕「授業は仲間と対話しながら学べ、やりがいがある」</p>	
重点目標 2	ひとりひとりを認め、生徒とともに歩む教職員集団を目指します	3
主な方策 成果と課題	<p>○共に生きる力を高める仲間づくりを推進します。</p> <p>①コアラタイムなどの教育相談、スクールカウンセラーによるカウンセリングの充実 ②Q-U調査を活用した学級づくり ・仲間づくり ③不登校等個別の支援の継続</p> <p>成果と課題 ・デイリーライフ（生活ノート）やコアラ週間（教育相談）などで一人ひとりの生徒の声をしっかりと受け止め、様々な場面で生徒同士や生徒と教師のよい関係づくりに取り組むことができました。今後も継続して対応していきます。 ・不登校の取組シート「様式3」の有効活用を進めました。今後は更に各生徒の状況に応じたきめ細やかな指導や支援に取り組んでいきます。 ・不登校については、SC・SSW、関係機関等と連携して、個別にきめ細かく支援することができました。今後は個々の生徒が将来について見通しが持てるように支援していきます。</p> <p>★学校自己評価において 「学校は、生徒一人ひとりが、楽しい学校生活を送れるように努めている。」 → 肯定的な回答 生徒95% 保護者92%</p>	

重点目標 3	地域、保護者との協働、校区の学びの一体化を進めます	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○学校からの情報を発信するとともに地域とともにある学校を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校便りやHP及び「Home&School」、動画配信による情報発信 ・生徒の地域行事への参加意欲の醸成と参加方法の工夫等 <p>○校区の学びの一体化を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗り入れ授業、人権フォーラム、三校二園合同研修会の実施等 <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の学校の様子をHPや「Home&School」により配信、また定期的な学校便りを発信し、本校の目指す教育について多くの方に理解していただきました。また、体育祭の一部や文化祭を動画で配信しました。 ・「通学路の除草作業」や「内部川清掃」をPTAや地域の方々と取り組むことで地域の環境美化につなげることができました。 ・生徒たちが「内部線100周年記念ウォークキング大会」や、その運営ボランティアに参加したり、生徒会が中心となり参加賞として万古焼の「内部線箸置」を製作したりして、地域の行事を盛り上げました。 ・「あったか訪問」でプレゼント製作を行い、地域の福祉について考えました。 ・小学校への乗り入れ授業として、小学校へ英語の教職員が授業を実施しました。また、各校をリモートでつなぎ、人権フォーラムを行いました。 <p>★学校自己評価</p> <p>「学校の教育活動は全体的に見て満足できる状態にある。」 → 肯定的な回答 生徒96% 保護者94%</p>	

重点目標 4	キャリア教育を推進します	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○キャリア教育の推進に努めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①志講演による長期的な人生設計について考える機会の設定 ②職業観・勤労観を学ぶ「職業講話」の実施 ③社会において確かに幸せに生きるために必要な学力、体力、能力を身に付けます。 <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何のために学ぶのか」を考えられるようになり、近い将来（高校受験）だけでなく、その先を見据えた進路意識を持たせることができました。 ・進路の実現に向かって、今できることを意識し取り組んでいくために、学んだことと日常生活とのつながりを見出す指導を今後も継続していきます。 <p>★学校自己評価において</p> <p>「学校では、将来に向けて夢や志を持つことの大切さや自らの生き方を学習している。」→ 肯定的な回答 生徒92% 保護者91%</p>	

2 改善方針

1 生徒にとって、わかる授業をめざした授業改善を進めます

「主体的・対話的な学び」の実現のために「言語活動の充実」を意識した授業改善に取り組んでいきます。個別最適な学習に取り組むために、タブレット等のICT機器の活用し、機器の扱いやソフトの使用法等の研修を継続していきます。さらに特別支援の視点に立った課題の提示の仕方、学習形態、授業形態、教具等を工夫し、すべての生徒がやりがいを持って取り組める授業づくりを目指します。

2 ひとりひとりを認め、生徒とともに歩む教職員集団を目指します

落ち着いた中で意欲的に取り組む生徒が多い一方で、学力不振や自己肯定感が低いことなどが原因で不登校になってしまう生徒がいます。コアタイムなどの教育相談の体制をさらに充実するとともに、教職員以外の職員や関係機関と積極的に連携し、チームで取り組んでいきます。

3 地域、保護者との協働、校区の学びの一体化を進めます

引き続きコミュニティスクールの活動として、委員の方から学校運営について様々な観点からご意見を頂戴し、教育活動の改善を図っていきます。生徒・保護者・地域と一体となった取組としては、「通学路清掃」や「内部川清掃」などよりよい地域環境を目指して取り組むとともに、地域の行事に自主的に参加する生徒の育成に取り組めます。生徒の安全を確保するために引き続き「通学路検討会議」を開いたり、必要に応じて生徒の見守り活動を行うなどの取組を行っていきます。学校の様子をHPや学校通信等で積極的に発信し、学校の活動を理解や支援をいただけるよう取り組んでいきます。学びの一体化については、担当教職員を中心にして、乗り入れ授業や合同研修会を実施し、小学校から中学校へのスムーズな接続を図ります。

4 キャリア教育を推進します

本校は例年、キャリア教育に関する特色のある取組（志講演、高校体験授業等）を行っており、本校の行事の一つとして定着しています。今後も生徒たちのキャリアの発達を促す視点でカリキュラム・マネジメントを行い、生徒の発達段階に応じたキャリア教育をすすめ、社会において確かに幸せに生きるために必要な学力、体力、能力を身に付けられる取組を行います。

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 楠中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	『あたたかさ』 道徳・人権教育、教育相談、生徒会活動等の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>■今年度も新型コロナの影響により学級閉鎖や行事の中止などがあり、その影響もあったのか、不登校傾向のある生徒の割合が高い様子が見られた。昨年度に引き続き、個々の生徒への細やかな対応をするため、スクールカウンセラーやSSWとの連携を密にとり、各関係諸機関も含め学校、保護者、地域で見守る体制の構築にあたった。その結果、別室登校で学校へ来るリズムを作ることができたり、卒業後を見据えて前向きに進路について考えたりする生徒が増えた。また、他の課題と向き合っている生徒に対しても日々の「やりとり帳」での担任との交流や、あたたかい言葉かけ等、日頃からの関係づくりもおこなっている。今後もさらなる生徒理解に努め、子どもたちと向き合っていきたい。</p> <p>■昨年度の北勢地区人権・同和教育研究大会での経験を活かし、今年度も人権学習の取組に時間をかけて取り組めた。人権学習の研修等年間計画に基づいた学習内容を実施し、各学年が工夫を重ねながら、子どもが主体的に学べる授業づくりが実践できた。また、道徳についても子どもが自分事として今後の生き方について深く考えられるような振り返り方法、評価の仕方等が定着してきたと考える。</p> <p>■生徒会の活動については、近年のコロナ禍による行事の中止や縮小によって子どもたちの主体的な活躍の場が以前に比べて少なくなっているが、限られた範囲内でも活発な活動（生徒会通信の配付や校内放送や動画を利用した啓発活動など）がなされている。生徒たちが今後も前向きに活動できるような場の設定をしていきたい。</p>	
重点目標 2	『たくましさ』 主体的な活動、健康教育、安全教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>■今年度も新型コロナウイルスの感染状況により学級閉鎖や予定していた教育活動の中止などがあったが、安心・安全な学習環境づくりのために、手洗い・うがいの指導や教室の換気・黙食・密を避ける取り組み等を徹底した。また、保健委員会の活動の中で生徒による啓発動画の撮影や、校内放送での呼びかけなど感染症対策に関わる取り組みを実施した。</p> <p>■今年度は学校保健委員会をオンラインではなく学校で開催することができた。保護者も参加していただき、生活リズム等についての保護者からの視点のご意見や、学校医からのアドバイスをいただくなど、活発な話し合いができた。また、養護教諭が保健だよりにより委員会の内容について掲載、配付し全校生徒向けの保健指導も実施した。加えて保健室前の掲示物を利用し、その時期にあった子どもたちの興味関心を喚起するテーマで、体や心の健康に関する学びが生まれる掲示物が提供でき、意識啓発を行った。今後も個別の生活改善につなげていきたい。</p> <p>■今年度も地区別集会で確認した危険箇所や災害時にどう身を守るかについての話し合い結果と各地区の保護者から提供された情報により町内の危険場所のマップを昇降口付近に掲示している。また、今年度は火災を想定したグラウンドへの避難訓練と水害を想定した屋上への避難訓練を実施した。地区の地理的状況について生徒の理解を深め、防災意識・危機管理能力を高めていきたい。</p>	

重点目標 3	『たしかさ』 学力の向上、キャリア教育、特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>■例年通り「授業の四か条」「基礎学習の流れ」「家庭学習の手引き」の内容検討、確認を行い取り組みを進め、授業・補充学習・家庭学習等の子どもの主体的な取組につなげた。さらに、生活リズムチェックシートを活用し、日々の生活面等の検証や改善に努め、学力向上の基盤である子ども理解に役立てた。</p> <p>■コロナ対応によってようこそ先輩（卒業生による進路ガイド）が中止となったが、職場体験学習を予定通り3日間実施することができた。地域の方から労働の意義や喜びについて学ぶ機会を得ることができたのは、生徒にとって大きな財産になったと考える。また、外部講師を招いての「マナー講座」を2年生と3年生で実施し、社会に出た時に身に着けるべき所作や姿勢、意識について学ぶことができた。</p> <p>■特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援委員会や生徒指導委員会、運営委員会などで現状と対策を話し合い、一人ひとりの生徒の課題を共有し、その生徒や保護者のニーズにあった教育支援や合理的配慮について組織的に行なっている。また、SCやSSW、教育支援課をはじめ、関係諸機関との連携を深め、本人や保護者、家庭の困り感を理解し、進路保証も含めて学校全体で組織的に支援にあたりたい。</p>	

重点目標 4	『地域とともに作る学校』 地域人材の活用促進、地域での学習活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>■コミュニテースクール運営協議会の開催回数が昨年度と同様、コロナ対応により予定より減少してしましたが、委員の皆様とは運営協議会以外の場でもお世話になる機会があり、学校の教育活動や運営方針の状況について客観的な評価や様々な助言をいただくことができた。また、まちづくり協議会主催の行事への中学生ボランティアの参加や、吉崎海岸清掃への自主的な参加など、地域とのつながりが子どもたちの中に根付いている様子が見られる。また、地区の人権標語作品募集に学年単位で参加しており、生徒の入選作品が印刷された幟が毎年学校に送られ、校内に掲示して人権意識を高める啓発活動の一環としている。今後も子どもたちと地域との深いつながりを学校の強みとして、開かれた学校づくりを目指したい。</p> <p>■地域の総合型スポーツクラブである、楠スポーツクラブからは部活動指導員が派遣されているだけでなく、設置外の活動でも子どもたちが指導を受けており、自分の興味のあるスポーツに意欲的に取り組むことができる体制が整っている。今後も楠中学校と楠スポーツクラブの連携を深め、人的交流を図っていくことで子どもたちの主体的な活動の場を広げていきたいと考える。</p>	

2 改善方針

<p>■本校教職員は普段の授業中の発言や休み時間の何気ない会話、やり取り帳の記述内容等から、きめ細やかな生徒観察をして、学習指導や支援に活かしている。また、小さな情報も大切に、学年、学校全体で共有して生徒への理解を深め、一人一人を大切にする教育を目指してきた。今後も、学年間の連携や困り感の共有をより充実させていくことによって、学校組織としての支援・指導を行えるようにしたい。また、コロナ対応を含めた多様化する課題に協力して取り組み、子どもたちの成長につながるような教育活動、場の設定をしていきたい。</p> <p>■主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、「人権学習（総合的な学習の時間）」において、「学び合い」や「考え合う」授業づくりに工夫を重ねてきた。今年度の振り返りを全体研修会等で行い、全体での共有をしていくことが大切であると考えている。次年度に新しく着任する教員がすぐに楠中の教育を理解し、実践できるような引継ぎ内容を残していきたい。</p> <p>■多様化する課題に対する取り組み内容も年々多種多様になってきているが、ただ単に内容、選択肢を増やしていくのではなく、働き方改革も意識しながら教育活動、業務の精選を進めていきたい。心身ともに健康でなくては、よりよい教育は目指すことができない。コロナ禍ではあるが、子どもとともに教職員も成長できるような学校づくりを目指していきたい。</p>
